

平成 15 年

# 石川県の人口動態

(平成14年10月1日から)  
(平成15年9月30日まで)



石川県県民文化局

# は し が き

この報告書は、県内の人口移動の実態を把握し、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的として、石川県統計調査条例（昭和28年石川県条例第5号）及び石川県人口移動統計調査要綱（昭和46年石川県告示第170号）に基づき、平成14年10月1日から平成15年9月30日までの月々の人口を推計したものをとりまとめたものです。

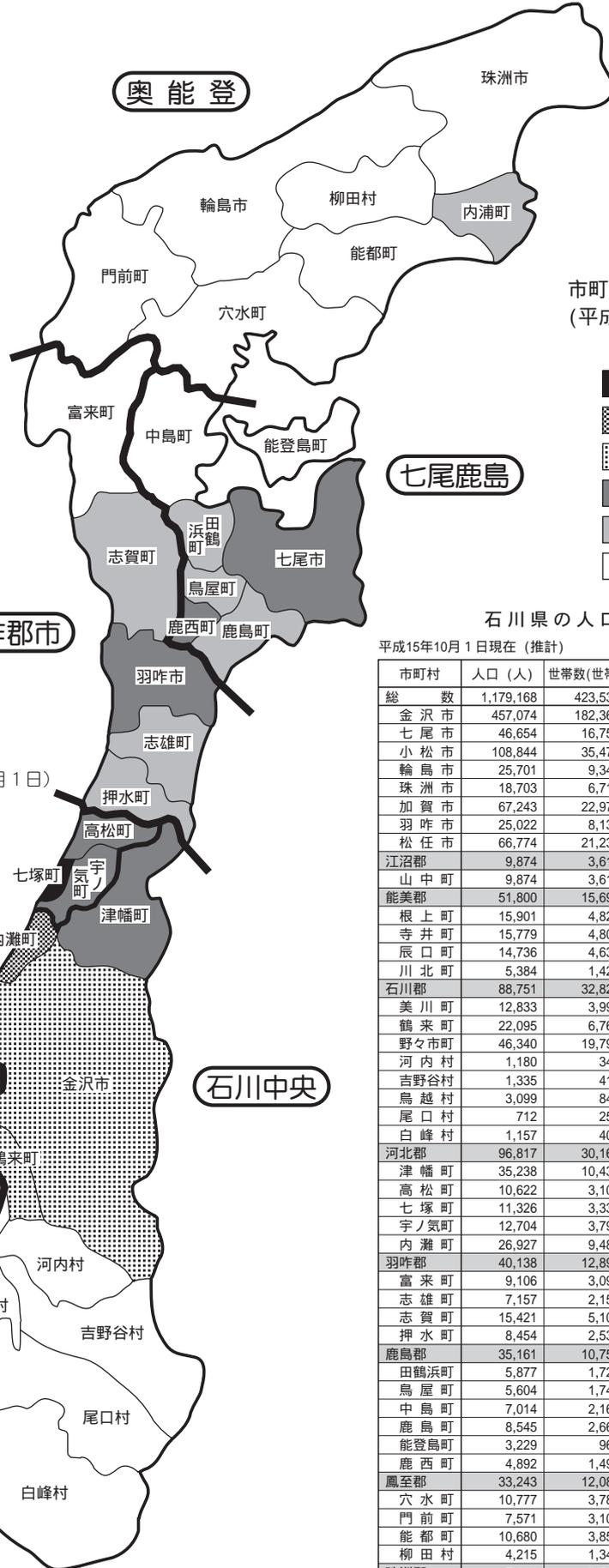
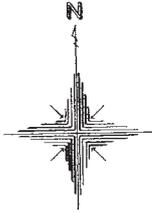
本書が人口統計に関する基礎資料として、行政施策のみならず各方面で広く活用いただければ幸いに存じます。

なお、調査の実施にあたり、御協力をいただきました市町村関係各位に深く感謝申し上げます。

平成16年3月

石川県県民文化局長 新 宅 剛

# 石川県



市町村別人口密度  
(平成15年10月1日現在)

(1 km<sup>2</sup>当たり)

- 1,500人以上
- 1,000人～1,499人
- 500人～999人
- 250人～499人
- 100人～249人
- 100人未満

石川県の人口と世帯

平成15年10月1日現在 (推計)

市町村	人口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人)
総数	1,179,168	423,530	4185.39	281.73
金沢市	457,074	182,363	467.77	977.13
七尾市	46,654	16,754	143.99	324.01
小松市	108,844	35,478	371.13	293.28
輪島市	25,701	9,341	268.67	95.66
珠洲市	18,703	6,710	247.19	75.66
加賀市	67,243	22,976	151.60	443.56
羽咋市	25,022	8,135	81.96	305.30
松任市	66,774	21,239	59.93	1114.20
江沼郡	9,874	3,619	154.39	63.95
山中町	9,874	3,619	154.39	63.95
能美郡	51,800	15,691	98.61	525.30
根上町	15,901	4,824	13.57	1171.78
寺井町	15,779	4,800	13.15	1199.92
辰口町	14,736	4,639	57.13	257.94
川北町	5,384	1,428	14.76	364.77
石川郡	88,751	32,822	708.80	125.21
美川町	12,833	3,995	9.12	1407.13
鶴来町	22,095	6,769	35.64	619.95
野々市町	46,340	19,798	13.56	3417.40
河内村	1,180	345	74.42	15.86
吉野谷村	1,335	415	142.89	9.34
鳥越村	3,099	841	74.15	41.79
尾口村	712	256	137.52	5.18
白峰村	1,157	403	221.50	5.22
河北郡	96,817	30,163	195.58	495.03
津幡町	35,238	10,437	110.44	319.07
高松町	10,622	3,108	26.40	402.35
七塚町	11,326	3,339	6.39	1772.46
宇ノ気町	12,704	3,798	31.97	397.37
内灘町	26,927	9,481	20.38	1321.25
羽咋郡	40,138	12,896	358.23	112.05
富来町	9,106	3,094	123.48	73.74
志雄町	7,157	2,159	58.26	122.85
志賀町	15,421	5,107	123.07	125.30
押水町	8,454	2,536	53.42	158.26
鹿島郡	35,161	10,757	263.29	133.54
田鶴浜町	5,877	1,728	28.40	206.94
鳥屋町	5,604	1,740	27.00	207.56
中島町	7,014	2,162	98.75	71.03
鹿島町	8,545	2,665	47.58	179.59
能登島町	3,229	964	46.78	69.03
鹿西町	4,892	1,498	14.78	330.99
鳳至郡	33,243	12,082	560.42	59.32
穴水町	10,777	3,780	183.24	58.81
門前町	7,571	3,106	157.56	48.05
能都町	10,680	3,851	115.48	92.48
柳田村	4,215	1,345	104.14	40.47
珠洲郡	7,369	2,504	53.83	136.89
内浦町	7,369	2,504	53.83	136.89

かほく市誕生  
(平成16年3月1日)

- 高松町
- 七塚町
- 宇ノ気町

(注) 面積は、国土地理院の「平成15年全国都道府県市区町村別面積調」による。なお、穴水町及び門前町については、一部境界未定のため、総務省統計局による推定に基づく。

# 目 次

本県総人口のすがた .....	1
調査結果の概要 .....	4
1 人口総数 .....	4
(1) 現 状 .....	4
(2) 推 移 .....	4
(3) 人口性比と人口密度 .....	4
2 人口増減の要因 .....	6
(1) 自然動態 .....	6
(2) 社会動態 .....	6
3 地域別人口 .....	8
(1) 広域圏別 .....	8
(2) 地域別人口構成比 .....	8
4 市町村別人口 .....	9
(1) 人口増加市町村 .....	10
(2) 人口減少市町村 .....	10
(3) 人口密度 .....	10
(4) 人口性比 .....	10
(5) 過去 5 年間及び10年間の増減 .....	11
5 年齢別人口 .....	12
(1) 年齢構造指数 .....	12
(2) 全国比較 .....	13
(3) 市町村別の年齢 3 区分別人口 .....	14
(4) 広域圏等の状況 .....	14
(5) 市町村別の従属人口指数、老年化指数 .....	14
6 世帯数及び 1 世帯当たり人員 .....	15
(1) 市町村別の世帯数と増減率 .....	15
(2) 1 世帯当たり人員 .....	16
7 出生及び死亡の状況（自然動態） .....	16
(1) 市町村別自然動態 .....	16
(2) 年齢階級別死亡者数 .....	17
8 移動者の状況（社会動態） .....	18

(1) 移動者数 .....	18
(2) 市町村別移動者数 .....	18
(3) 県外移動者数 .....	20
(4) 年齢階級別移動者数 .....	21
(5) 男女別移動者数 .....	22
(6) 過去の推移 .....	23

## 統計表

第1表 市町村別推計人口・世帯数（平成15年10月1日現在） .....	26
第2表 1年間の人口動態（平成14年10月1日～平成15年9月30日） .....	28
第3表 平成14年10月人口動態 .....	30
第4表 平成14年11月人口動態 .....	32
第5表 平成14年12月人口動態 .....	34
第6表 平成15年1月人口動態 .....	36
第7表 平成15年2月人口動態 .....	38
第8表 平成15年3月人口動態 .....	40
第9表 平成15年4月人口動態 .....	42
第10表 平成15年5月人口動態 .....	44
第11表 平成15年6月人口動態 .....	46
第12表 平成15年7月人口動態 .....	48
第13表 平成15年8月人口動態 .....	50
第14表 平成15年9月人口動態 .....	52
第15表 年次別自然動態 .....	54
第16表 年次別社会動態 .....	56
第17表 市町村別、年齢（各歳）別、男女別人口（平成15年10月1日現在） .....	58
第18表 市町村相互における県内移動者数 .....	118
第19表 都道府県別・月別県外移動者数 .....	130
付表1 1年間の人口動態（平成14年4月～平成15年3月） .....	132
付表2 1年間の人口動態（平成14年1月～平成14年12月） .....	134
参考1 年次別総人口の推移（各年10月1日現在） .....	136
参考2 年次別総世帯数の推移（各年10月1日現在） .....	138
利用上の注意 .....	140
石川県人口移動統計調査要綱 .....	142

# 本県総人口のすがた

図1 石川県の人口ピラミッド (平成15年10月1日現在推計人口)

総数 1,179,168人

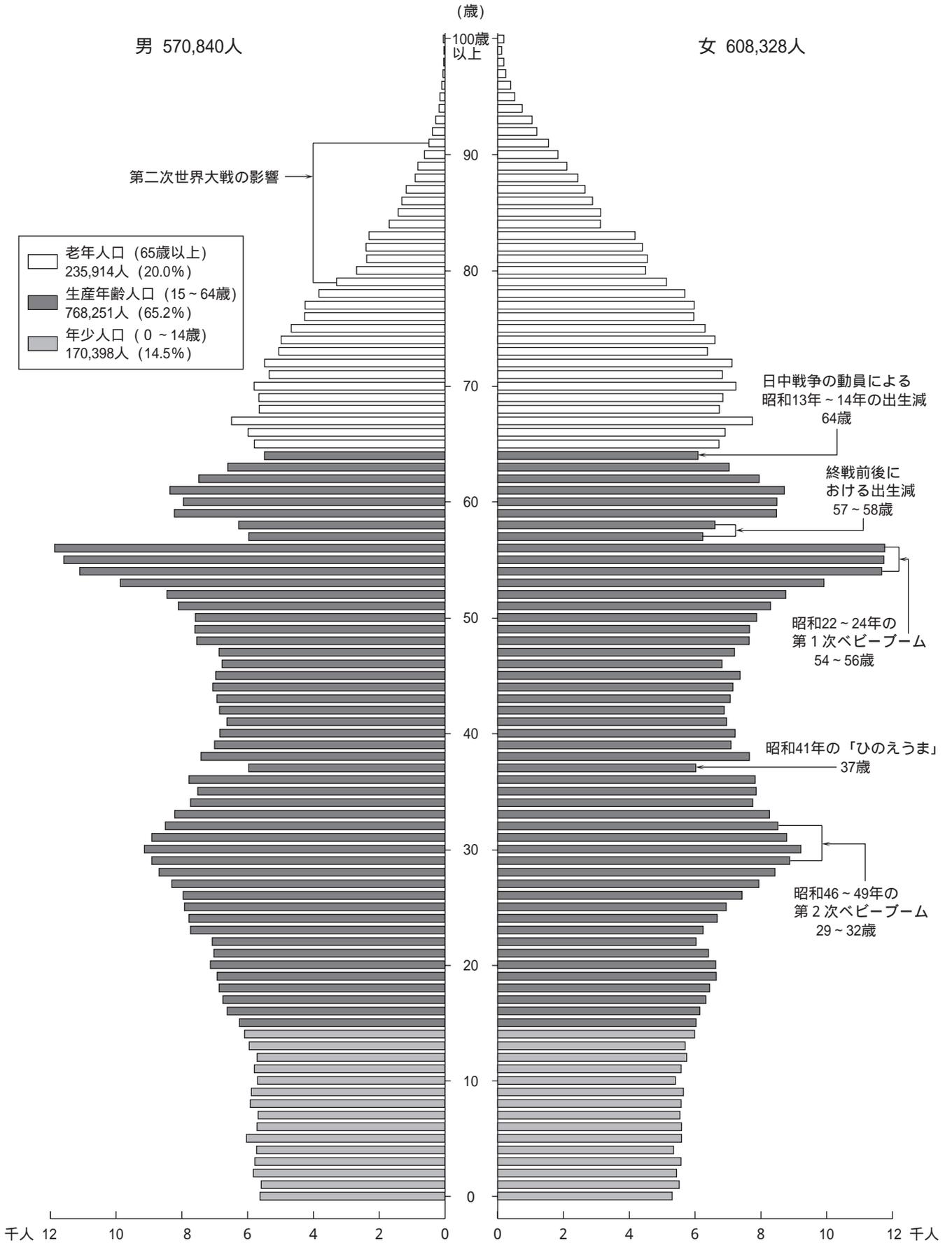
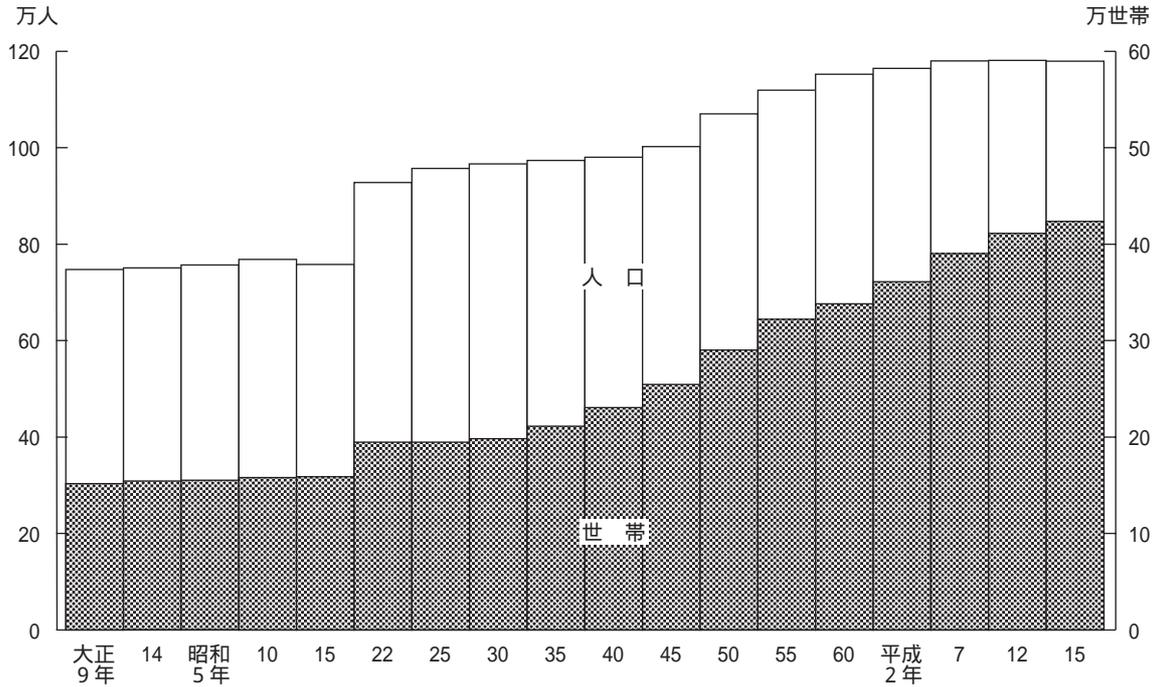
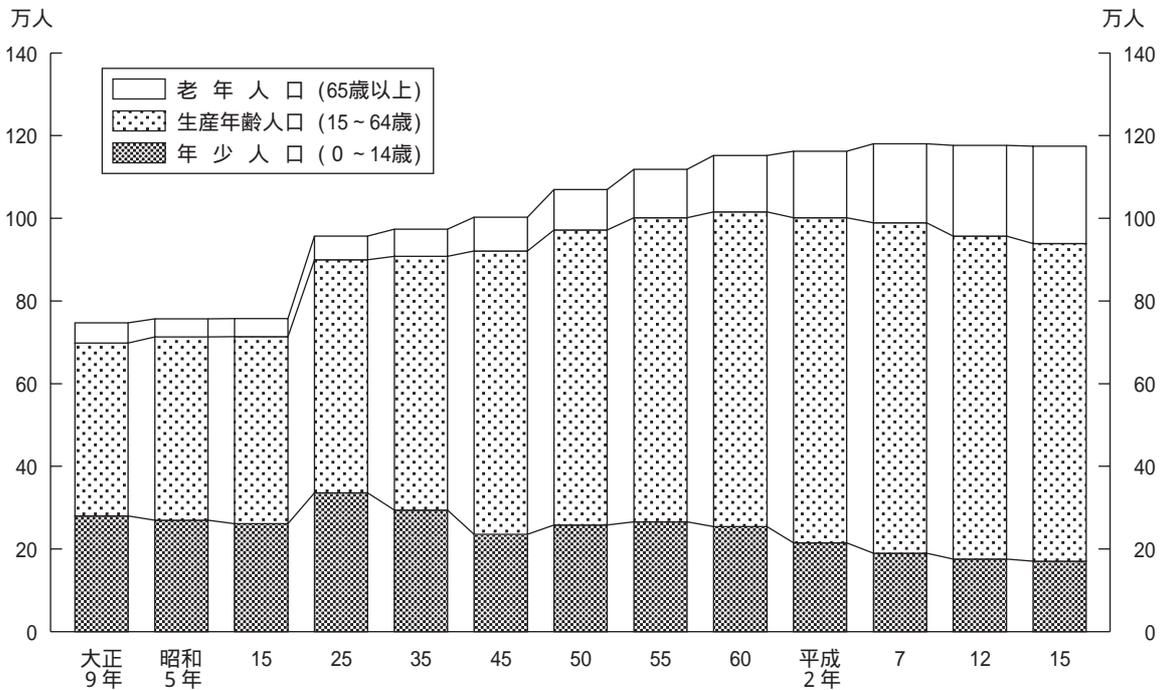


図2 人口と世帯の推移 (大正9年～平成15年)



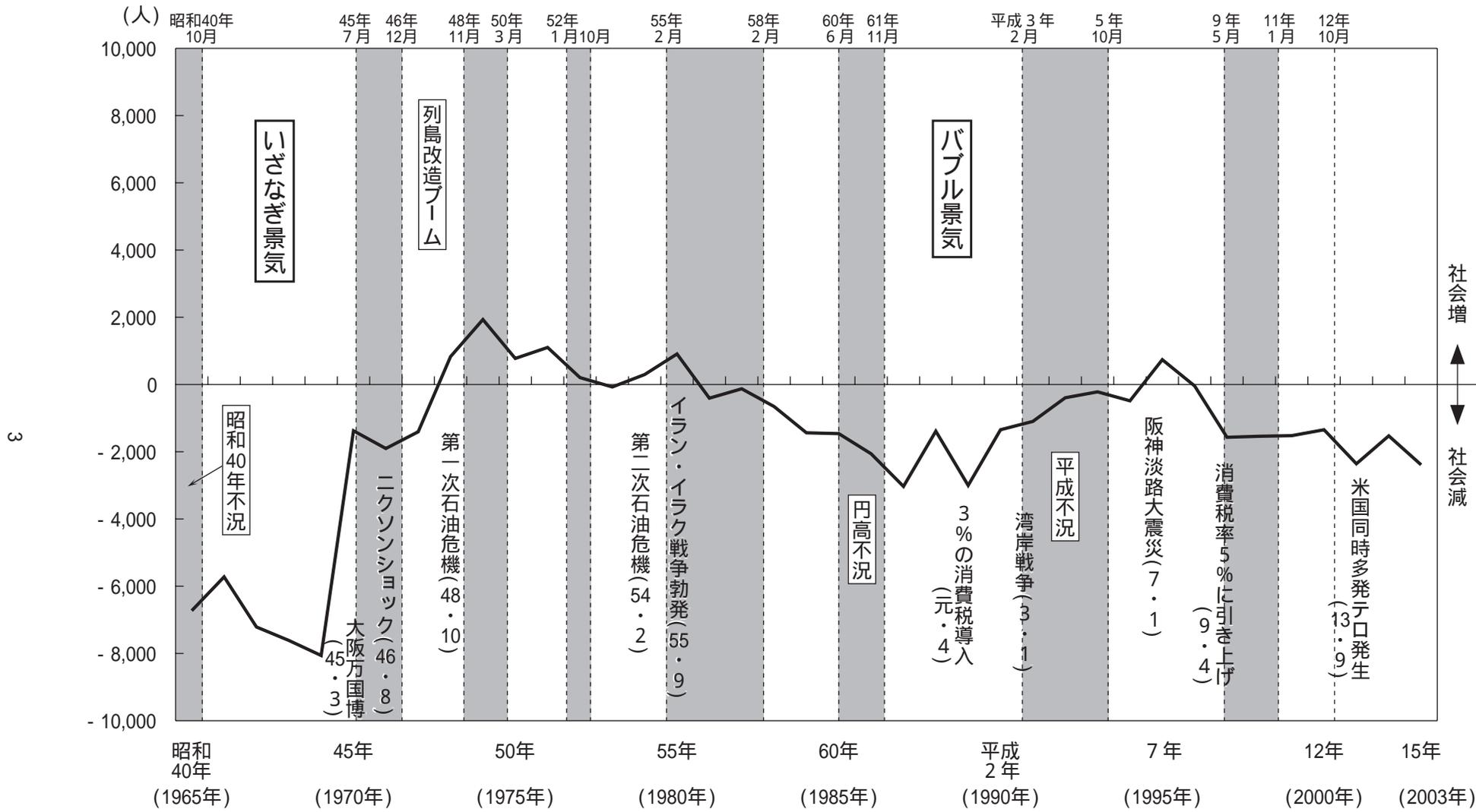
注 大正9年～平成12年は国勢調査の結果であり、平成15年は10月1日現在の県推計人口・世帯数である。

図3 年齢3区分別人口の推移 (大正9年～平成15年)



注 1 大正9年～平成12年は国勢調査の結果であり、平成15年は10月1日現在の県推計人口である。  
2 年齢「不詳」を除く。

### 経済動向と社会増減の推移 (昭和40年～平成15年)



注 1 各景気の名称は正式なものではなく通称を付したものである。■部分は景気後退期を示す。  
 2 各年分の社会増減数は、前年10月から当年9月の計である。

資料：「経済要覧（平成15年版）」（内閣府経済社会総合研究所）  
 「石川県の人口動態」（石川県統計情報室）

# 調査結果の概要

## 1 人口総数 統計表第1表 (P26)

◇総人口は減少◇

総人口	1,179,168人	(平成15年10月1日現在推計人口)
1年間の増加数	△1,397人	(平成14年10月1日～15年9月30日)
増加率	△0.12%	(同上)
[内訳] 男性	570,840人	(前年比 △796人 増加率 △0.14%)
女性	608,328人	(前年比 △601人 増加率 △0.10%)

### (1) 現状

本県の総人口は、1,179,168人（男性570,840人、女性608,328人）で、この1年間（「平成14年10月1日から平成15年9月30日まで」以下同じ。）に、1,397人（0.12%）減少した。（表1）

### (2) 推移

本県の総人口は、大正9年の第1回国勢調査では、747,360人であったが、戦後の第1次ベビーブーム（昭和22～24年）などによる急激な増加もあり、昭和45年国勢調査で100万人に達した。その後、第2次ベビーブーム（昭和46～49年）、人口のUターン・Jターン現象などにより、昭和45～50年の5年間の人口増加率は6.73%と比較的高い率となった。

しかし、近年は出生者数の減少や転出超過などにより増加率は低下し、平成7～12年の5年間では0.08%（909人の増加）と国勢調査では戦後最低の増加率となった。平成12年国勢調査後は増減を繰り返し、平成14～15年の1年間では1,397人の減少となった。（表1、図4、5）

### (3) 人口性比と人口密度

人口性比（女性100人に対する男性の数）は93.8で前年（平成14年10月1日現在）より、0.1ポイント低くなった。また、人口密度（1km<sup>2</sup>当たり）は、前年より0.4ポイント減少して281.7人であった。

（表1）

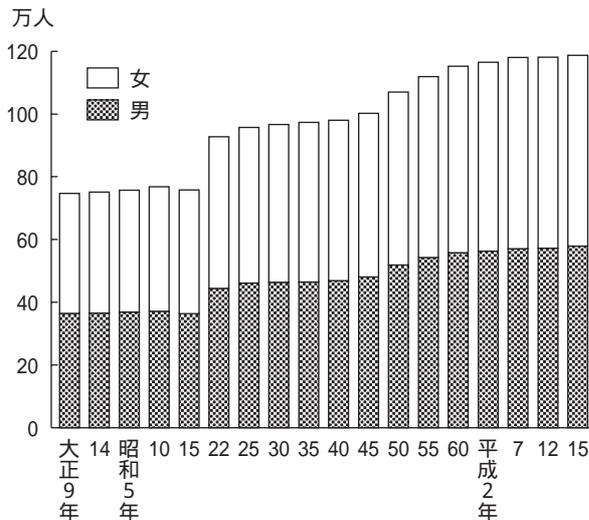
表1 年次別総人口

単位 人口：人  
増加率：%

年次	人口			対前回		性比(女100人 に対する男)	人口密度 (1km <sup>2</sup> 当たり)
	総数	男	女	増加数	増加率		
大正9年	747,360	364,375	382,985	-	-	95.1	178.0
14	750,854	365,597	385,257	3,494	0.47	94.9	178.9
昭和5年	756,835	368,402	388,433	5,981	0.80	94.8	180.3
10	768,416	370,907	397,509	11,581	1.53	93.3	183.3
15	757,676	363,922	393,754	10,740	1.40	92.4	180.7
22	927,743	443,872	483,871	170,067	22.45	91.7	211.7
25	957,279	460,859	496,420	29,536	3.18	92.8	228.2
30	966,187	463,477	502,710	8,908	0.93	92.2	230.4
35	973,418	464,889	508,529	7,231	0.75	91.4	232.1
40	980,499	468,518	511,981	7,081	0.73	91.5	233.8
45	1,002,420	480,380	522,040	21,921	2.24	92.0	238.9
50	1,069,872	518,594	551,278	67,452	6.73	94.1	255.0
55	1,119,304	542,782	576,522	49,432	4.62	94.1	266.7
60	1,152,325	557,664	594,661	33,021	2.95	93.8	274.5
平成2年	1,164,628	562,684	601,944	12,303	1.07	93.5	278.3
7	1,180,068	570,835	609,233	15,440	1.33	93.7	282.0
8	1,182,523	571,912	610,611	2,455	0.21	93.7	282.6
9	1,183,239	572,143	611,096	716	0.06	93.6	282.7
10	1,184,032	572,786	611,246	793	0.07	93.7	282.9
11	1,183,881	572,688	611,193	151	0.01	93.7	282.9
12	1,180,977	572,244	608,733	2,904	0.25	94.0	282.2
13	1,180,525	571,724	608,801	452	0.04	93.9	282.1
14	1,180,565	571,636	608,929	40	0.00	93.9	282.1
15	1,179,168	570,840	608,328	1,397	0.12	93.8	281.7

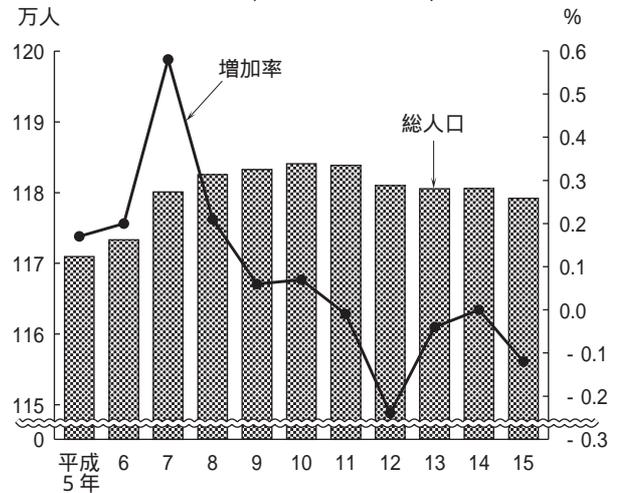
- 注 1 大正9年～平成7年、12年は国勢調査による人口であり、その他は県推計人口である。  
 2 対前回増加数、増加率は、大正9年～平成7年については、対前回国勢調査比較であり、平成8年～15年については、対前年比較である。  
 3 平成12年の対前年比較には、国勢調査と県推計人口との調査方法の違いによる差を含む。  
 4 各年10月1日現在

図4 人口の推移(大正9年～平成15年)



- 注 1 大正9年～平成12年は国勢調査による人口であり、平成15年は県推計人口である。  
 2 各年10月1日現在

図5 総人口及び増加率(対前年)の推移(平成5年～15年)



- 注 1 各年10月1日現在  
 2 平成7年及び12年の増加率には、国勢調査と県推計人口との調査方法の違いによる差を含む。

2 人口増減の要因 統計表第2表 (P28)、第15表 (P54)、第16表 (P56)

◇自然増加数はひき続きプラス、社会増加数では8年連続マイナス◇

自然増加数 986人  
社会増加数 △2,383人

(1) 自然動態

ア 自然増加数 (出生者数 - 死亡者数)

この1年間の自然増加数は、986人 (男性407人、女性579人) で、前年に比べて578人減少した。千人当たりの自然増加率は、0.8%で前年より0.5ポイント低くなった。

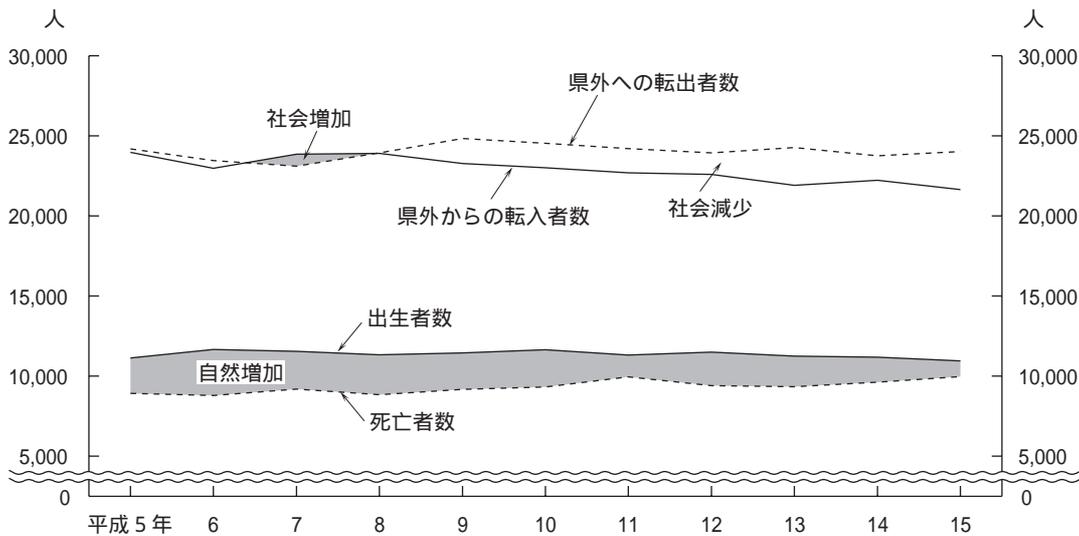
イ 出生者数

この1年間の出生者数は、10,954人 (男性5,635人、女性5,319人) で、前年に比べて226人減少した。千人当たりの出生率は、9.3%で前年に比べると0.2ポイント低下した。

ウ 死亡者数

この1年間の死亡者数は、9,968人 (男性5,228人、女性4,740人) で、前年に比べて352人増加した。千人当たりの死亡率は、8.4%で前年より0.3ポイント高くなった。 (表2、3、図6、7)

図6 要因別人口動態の推移 (平成5年~15年)



注 各年分の人口動態は、前年10月から当年9月までの計である。

(2) 社会動態

この1年間の社会動態は、県外からの転入者21,649人 (男性12,592人、女性9,057人) に対して、県外への転出者24,032人 (男性13,795人、女性10,237人) で差引2,383人の減少となり、引き続き転出超過となった。

転入率は、1.8%で前年に比べ0.1ポイント低くなり、転出率は2.0%で、前年と変わらなかった。

(表2、3、図6)

表2 年次別、要因別人口増加数（平成5年～15年）

単位：人

年次	総増加数	自然動態			社会動態		
		自然増加数	出生者数	死亡者数	社会増加数	県外からの転入者数	県外への転出者数
平成5年	1,987	2,205	11,125	8,920	218	23,976	24,194
6	2,389	2,874	11,662	8,788	485	22,976	23,461
7	3,087	2,344	11,539	9,195	743	23,851	23,108
8	2,455	2,498	11,333	8,835	43	23,901	23,944
9	716	2,282	11,450	9,168	1,566	23,277	24,843
10	793	2,327	11,641	9,314	1,534	23,010	24,544
11	151	1,365	11,309	9,944	1,516	22,692	24,208
12	761	2,103	11,505	9,402	1,342	22,598	23,940
13	452	1,901	11,242	9,341	2,353	21,917	24,270
14	40	1,564	11,180	9,616	1,524	22,227	23,751
15	1,397	986	10,954	9,968	2,383	21,649	24,032

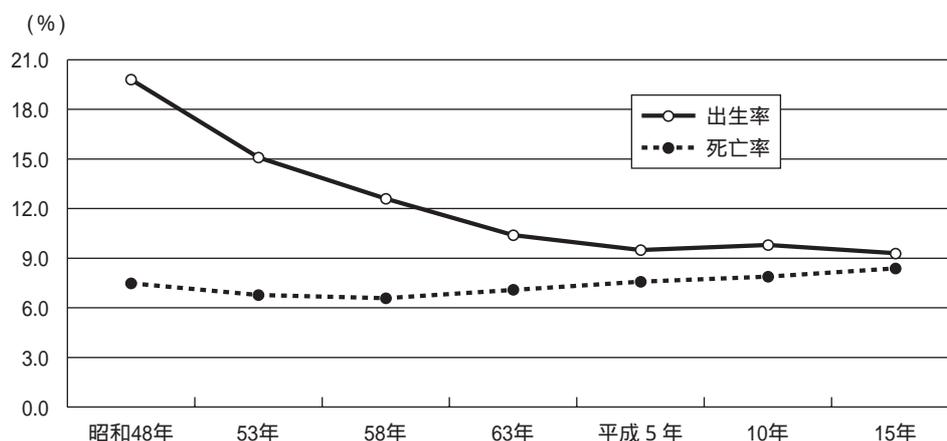
- 注 1 各年分の人口増加数は前年10月から当年9月までの計である。  
 2 総増加数は、自然増加数と社会増加数の計である。

表3 年次別、要因別人口動態率（平成5年～15年）

年次	自然動態			社会動態		
	自然増加率 ‰	出生率 ‰	死亡率 ‰	社会増加率 ‰	転入率 %	転出率 %
平成5年	1.9	9.5	7.6	0.2	2.1	2.1
6	2.5	10.0	7.5	0.4	2.0	2.0
7	2.0	9.8	7.8	0.6	2.0	2.0
8	2.1	9.6	7.5	0.0	2.0	2.0
9	1.9	9.7	7.8	1.3	2.0	2.1
10	2.0	9.8	7.9	1.3	1.9	2.1
11	1.2	9.6	8.4	1.3	1.9	2.0
12	1.8	9.7	7.9	1.1	1.9	2.0
13	1.6	9.5	7.9	2.0	1.9	2.1
14	1.3	9.5	8.1	1.3	1.9	2.0
15	0.8	9.3	8.4	2.0	1.8	2.0

- 注 各年分の人口動態率は前年10月から当年9月までの1年間のものである。  
 なお、転入率・転出率には県内間の移動分を含んでいない。

図7 出生率と死亡率の推移



### 3 地域別人口 統計表第1表 (P26)

◇石川中央は増加、その他は減少◇

加賀地域では、石川中央は緩やかに人口増加を続けているが、南加賀は減少となった。  
能登地域は依然として減少が続いている。

#### (1) 広域圏別

石川中央が1,102人 (0.16%) 増加したが、南加賀は130人 (0.05%)、奥能登は1,253人 (1.45%)、羽咋郡市は654人 (0.99%)、七尾鹿島は462人 (0.56%)、いずれも減少した。 (表4)

#### (2) 地域別人口構成比

地域別人口構成比では、石川中央60.2%、南加賀20.2%、奥能登7.2%、七尾鹿島6.9%、羽咋郡市5.5%であり、加賀地域が全体の80.4%を占めた。これを13年前の平成2年と比較すると、石川中央で3.0ポイント、南加賀が0.3ポイント上昇した。一方、能登地域はいずれも低下したため、その格差は更に拡大した。 (表4、図8)

表4 年次別、地域別人口 (平成5年～15年)

単位 人口：人  
増加率：%

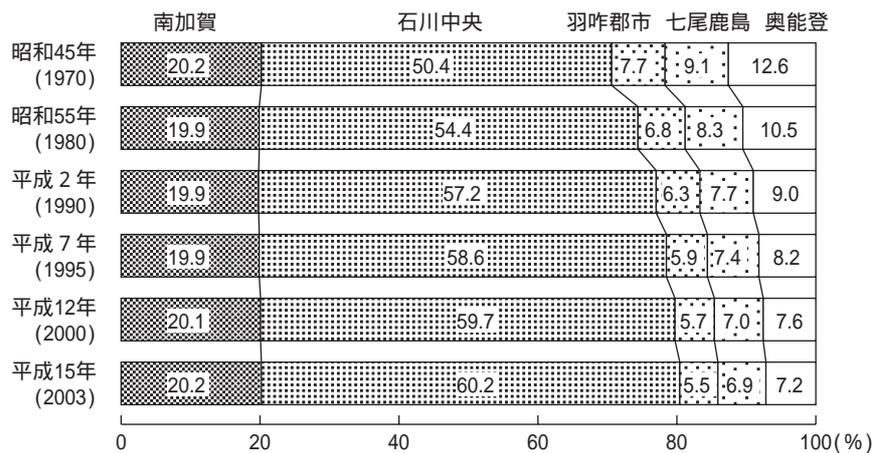
年次	総数	加賀			能登					
		計	南加賀	石川中央	計	羽咋郡市	七尾鹿島	奥能登		
実数	平成5年	1,170,912	911,713	233,063	678,650	259,199	71,300	88,128	99,771	
	6	1,173,301	916,478	233,548	682,930	256,823	70,708	87,763	98,352	
	7	1,180,068	926,752	234,845	691,907	253,316	69,876	87,084	96,356	
	8	1,182,523	931,939	235,754	696,185	250,584	69,123	86,570	94,891	
	9	1,183,239	935,317	236,032	699,285	247,922	68,596	85,996	93,330	
	10	1,184,032	939,161	236,872	702,289	244,871	68,012	85,231	91,628	
	11	1,183,881	941,766	237,313	704,453	242,115	67,288	84,616	90,211	
	12	1,180,977	941,714	237,184	704,530	239,263	66,828	83,112	89,323	
	13	1,180,525	943,716	237,508	706,208	236,809	66,397	82,717	87,695	
	14	1,180,565	946,205	237,891	708,314	234,360	65,814	82,277	86,269	
	15	1,179,168	947,177	237,761	709,416	231,991	65,160	81,815	85,016	
	増加率	5～6	0.20	0.52	0.21	0.63	0.92	0.83	0.41	1.42
		6～7	0.58	1.12	0.56	1.31	1.37	1.18	0.77	2.03
		7～8	0.21	0.56	0.39	0.62	1.08	1.08	0.59	1.52
		8～9	0.06	0.36	0.12	0.45	1.06	0.76	0.66	1.65
9～10		0.07	0.41	0.36	0.43	1.23	0.85	0.89	1.82	
10～11		0.01	0.28	0.19	0.31	1.13	1.06	0.72	1.55	
11～12		0.25	0.01	0.05	0.01	1.18	0.68	1.78	0.98	
12～13		0.04	0.21	0.14	0.24	1.03	0.64	0.48	1.82	
13～14	0.00	0.26	0.16	0.30	1.03	0.88	0.53	1.63		
14～15	0.12	0.10	0.05	0.16	1.01	0.99	0.56	1.45		

注 1 平成7年及び平成12年は国勢調査による人口であり、その他は県推計人口である。

2 平成6年～7年及び11年～12年の増加率には、国勢調査と県推計人口との調査方法の違いによる差を含む。

3 各年10月1日現在

図8 地域別人口構成比の推移（昭和45年～平成15年）



注 昭和45年～平成12年は国勢調査の結果であり、平成15年は10月1日現在の県推計人口による。

#### 4 市町村別人口 統計表第1表 (P26)

##### ◇上位5市町村◇

増加数（前年比較）：松任市（526人）、川北町（233人）、鶴来町（179人）、野々市町（161人）、津幡町（137人）

増加率（前年比較）：川北町（4.52%）、鶴来町（0.82%）、松任市（0.79%）、辰口町（0.79%）、寺井町（0.75%）

##### ◇減少から増加へ◇

○輪島市（△322人→64人）、鹿島町（△37人→8人）

##### ◇増加から減少へ◇

○金沢市（580人→△57人）、小松市（342人→△81人）、河内村（4人→△4人）、鳥屋町（43人→△7人）

平成15年10月1日現在の市町村別人口の順位は、1位が金沢市の457,074人で県人口の38.8%を占め、次いで、小松市、加賀市、松任市、七尾市の順であり、昭和59年以降変わっていない。（表5）

表5 市町村別人口の順位（平成15年10月1日現在）

単位：人

順位	市町村名	人口	順位	市町村名	人口	順位	市町村名	人口	順位	市町村名	人口
1	金沢市	457,074	12	珠洲市	18,703	23	山中町	9,874	34	鹿西町	4,892
2	小松市	108,844	13	根上町	15,901	24	富来町	9,106	35	柳田村	4,215
3	加賀市	67,243	14	寺井町	15,779	25	鹿島町	8,545	36	能登島町	3,229
4	松任市	66,774	15	志賀町	15,421	26	押水町	8,454	37	鳥越村	3,099
5	七尾市	46,654	16	辰口町	14,736	27	門前町	7,571	38	吉野谷村	1,335
6	野々市町	46,340	17	美川町	12,833	28	内浦町	7,369	39	河内村	1,180
7	津幡町	35,238	18	宇ノ気町	12,704	29	志雄町	7,157	40	白峰村	1,157
8	内灘町	26,927	19	七塚町	11,326	30	中島町	7,014	41	尾口村	712
9	輪島市	25,701	20	穴水町	10,777	31	田鶴浜町	5,877			
10	羽咋市	25,022	21	能都町	10,680	32	鳥屋町	5,604			
11	鶴来町	22,095	22	高松町	10,622	33	川北町	5,384			

(1) 人口増加市町村

41市町村のうち、人口が増加したのは2市13町で、増加数の最も多かったのは松任市の526人であり、次いで川北町、鶴来町の順となっている。

このうち、輪島市と鹿島町は、前年の減少から増加に転じている。

また、増加率では、川北町が4.52%で最も高く、次いで鶴来町、松任市の順となっている。

引き続き金沢市近郊の市町での人口増加が続いている。  
(表6、図9)

(2) 人口減少市町村

人口が減少したのは6市14町6村で、減少数の最も多かったのは、加賀市の484人で、次いで珠洲市、能都町の順となっている。このうち、金沢市、小松市、河内村、鳥屋町は前年の増加から減少へと転じている。

減少率では、柳田村の3.96%、次いで門前町、富来町の順となっており、能登地域の減少が目立っている。  
(表6、図9)

(3) 人口密度 (1 km<sup>2</sup>当たり)

人口密度は野々市町の3417.40人が最も高く、次いで七塚町の1772.46人、美川町の1407.13人などであり、逆に低いのは尾口村の5.18人で、次いで白峰村の5.22人、吉野谷村の9.34人などの順となっている。

(4) 人口性比 (女性100人に対する男性の数)

人口性比で100を超えて男性が女性を上回る市町村は、野々市町 (113.1)、辰口町 (106.9)、白峰村 (105.5) の2町1村だけで、他の市町村はいずれも女性が上回り、人口性比の小さい市町村は、門前町 (81.6)、山中町 (83.4)、富来町 (84.9)、柳田村 (85.5)、高松町 (86.0) などの順となっている。

図9 市町村別人口増減率 (1年間)  
(平成14年10月～平成15年9月)

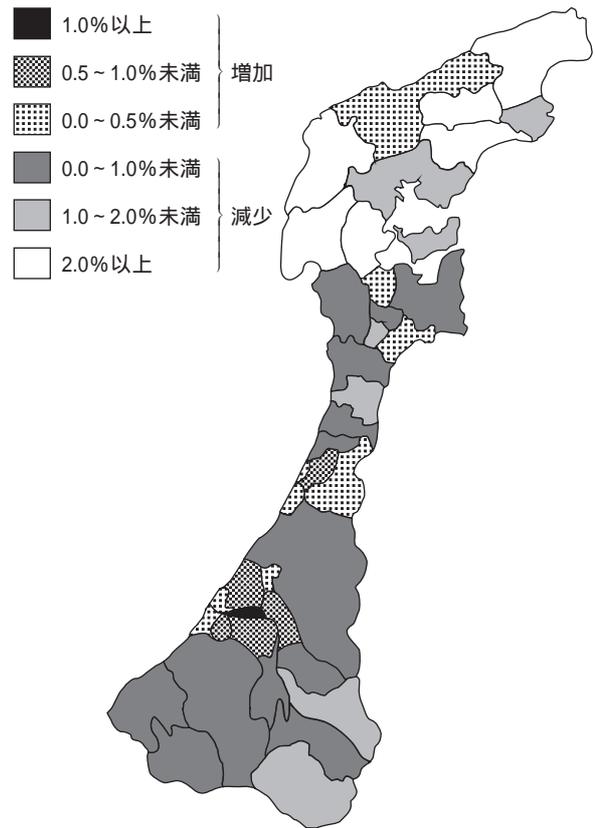


表6 過去1年間の人口増減数及び増減率の上位10市町村 (平成14年10月～平成15年9月)

順位	増		加		減		少	
	増	加	増	加	減	少	減	少
	数		率		数		率	
1	松任市	526	川北町	4.52	加賀市	484	柳田村	3.96
2	川北町	233	鶴来町	0.82	珠洲市	439	門前町	2.55
3	鶴来町	179	松任市	0.79	能都町	244	富来町	2.31
4	野々市町	161	辰口町	0.79	富来町	215	珠洲市	2.29
5	津幡町	137	寺井町	0.75	羽咋市	213	能都町	2.23
6	内灘町	125	宇ノ気町	0.56	七尾市	211	中島町	2.22
7	寺井町	118	内灘町	0.47	門前町	198	内浦町	1.94
8	辰口町	116	津幡町	0.39	柳田村	174	白峰村	1.36
9	宇ノ気町	71	野々市町	0.35	中島町	159	吉野谷村	1.26
10	輪島市	64	美川町	0.29	内浦町	146	鹿西町	1.25

単位 増減数：人  
増減率：%

(5) 過去5年間及び10年間の増減

- 過去5年間 増加…15市町村 減少…26市町村  
 ○過去10年間 増加…15市町村 減少…26市町村

ア 増加

「過去5年間の増加数」の上位10市町村のうち、美川町以外は「過去10年間の増加数」の上位9市町村と同じ市町村（順位は変動）となっている。河内村と七塚町は、過去10年間では増加になっているが、最近の5年間では減少になっている。（表7、8）

イ 減少

「過去5年間の減少数」の上位10市町村のうち、8市町村までは「過去10年間の減少数」の上位と同じ（順位は変動）となっている。尾口村と鳥屋町は、過去10年間では減少となっているが、最近の5年間では増加となっている。（表7、8）

表7 過去5年間の人口増減数及び人口増減率の上位10市町村（平成10年10月～平成15年9月）

順位	増		加		減		少	
	増加数		増加率		減少数		減少率	
1	津幡町	2,035	川北町	11.19	七尾市	2,217	吉野谷村	11.59
2	松任市	1,872	美川町	7.66	加賀市	2,216	能都町	10.39
3	野々市町	1,411	辰口町	7.29	珠洲市	1,658	門前町	10.10
4	辰口町	1,001	津幡町	6.13	輪島市	1,432	富来町	8.82
5	美川町	913	寺井町	5.73	能都町	1,238	珠洲市	8.14
6	寺井町	855	根上町	5.25	羽咋市	956	中島町	8.13
7	根上町	793	尾口村	4.71	富来町	881	柳田村	7.30
8	金沢市	674	野々市町	3.14	門前町	851	山中町	6.66
9	小松市	618	松任市	2.88	山中町	704	内浦町	6.35
10	鶴来町	578	鶴来町	2.69	中島町	621	能登島町	5.36

単位 増減数：人  
増減率：%

表8 過去10年間の人口増減数及び人口増減率の上位10市町村（平成5年10月～平成15年9月）

順位	増		加		減		少	
	増加数		増加率		減少数		減少率	
1	金沢市	10,749	津幡町	23.68	輪島市	3,432	門前町	19.54
2	津幡町	6,746	辰口町	18.94	珠洲市	3,412	能都町	19.09
3	松任市	5,389	川北町	18.64	七尾市	3,301	富来町	17.24
4	野々市町	5,097	野々市町	12.36	能都町	2,520	珠洲市	15.43
5	辰口町	2,347	寺井町	10.20	加賀市	2,186	柳田村	15.34
6	小松市	2,152	根上町	9.70	富来町	1,897	内浦町	14.98
7	寺井町	1,460	宇ノ気町	9.23	門前町	1,839	中島町	13.57
8	根上町	1,406	松任市	8.78	羽咋市	1,784	穴水町	12.15
9	鶴来町	1,322	美川町	7.37	穴水町	1,490	山中町	11.85
10	宇ノ気町	1,074	鶴来町	6.36	志賀町	1,469	輪島市	11.78

単位 増減数：人  
増減率：%

5 年齢別人口 統計表第17表 (P58)

◇年少人口及び生産年齢人口割合の縮小、老年人口割合の拡大が続く◇

年少人口 (0～14歳)	170,398人 (14.5%)	前年比	1,621人減少 (0.1ポイント低下)
生産年齢人口 (15～64歳)	768,251人 (65.2%)	”	4,068人減少 (0.2ポイント低下)
老年人口 (65歳以上)	235,914人 (20.0%)	”	4,292人増加 (0.4ポイント上昇)

平成7年に老年人口が初めて年少人口を上回って以来、年々その差が拡大している。

(1) 年齢構造指数

ア 年少人口指数 (生産年齢人口100人に対する年少人口の数)

22.2 前年比 0.1ポイント低下

イ 老年人口指数 (生産年齢人口100人に対する老年人口の数)

30.7 前年比 0.7ポイント上昇

ウ 従属人口指数 (生産年齢人口100人に対する年少人口及び老年人口の数)

52.9 前年比 0.6ポイント上昇

エ 老年化指数 (年少人口100人に対する老年人口の数)

138.4 前年比 3.8ポイント上昇

オ 生産年齢層からみて、昭和56年以降、扶養負担は子どもに対しては軽く (年少人口指数の低下) となったが、高齢者に対しては重く (老年人口指数の上昇) なってきている。

老年化指数 (生産年齢人口の多少による影響を受けないため、人口高齢化の程度をより敏感に示す) は、前年に比べ3.8ポイント上昇して138.4となり、確実に高齢化が進んでいることを示している。

(表9、図10)

図10 年齢構造指数の推移

年齢構造指数の説明 (図10、表9、10、12)

- ・年少人口指数 =  $\frac{\text{年少人口(0～14歳)}}{\text{生産年齢人口(15～64歳)}} \times 100$
- ・老年人口指数 =  $\frac{\text{老年人口(65歳以上)}}{\text{生産年齢人口(15～64歳)}} \times 100$
- ・従属人口指数 =  $\frac{\text{年少人口(0～14歳)} + \text{老年人口(65歳以上)}}{\text{生産年齢人口(15～64歳)}} \times 100$
- ・老年化指数 =  $\frac{\text{老年人口(65歳以上)}}{\text{年少人口(0～14歳)}} \times 100$

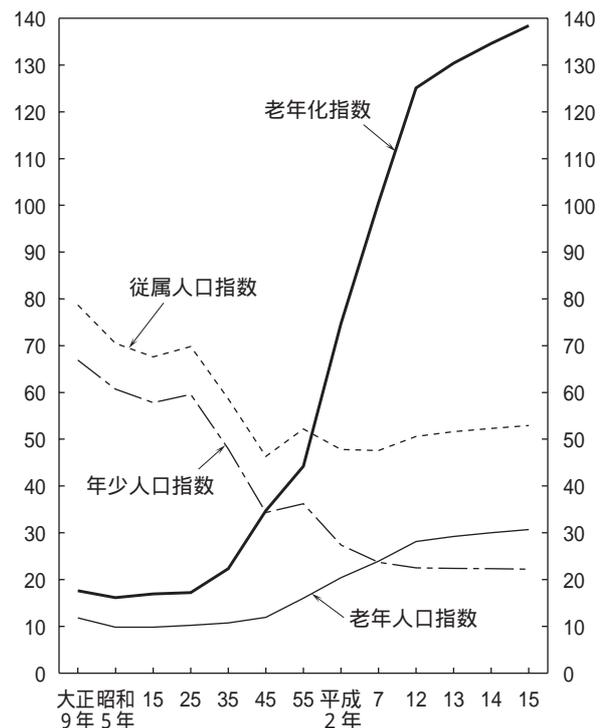


表9 年齢3区分別人口・割合・指数の推移

年次	年齢3区分別人口(人)・割合(%)						年齢構造指数			
	年少人口 (0～14歳)	構成比	生産年齢人口 (15～64歳)	構成比	老年人口 (65歳以上)	構成比	年少人口	老年人口	従属人口	老年化
大正9年	279,762	37.4	418,310	56.0	49,288	6.6	66.9	11.8	78.7	17.6
14	276,645	36.8	427,160	56.9	47,049	6.3	64.8	11.0	75.8	17.0
昭和5年	269,481	35.6	443,868	58.6	43,486	5.7	60.7	9.8	70.5	16.1
10	272,425	35.5	453,119	59.0	42,872	5.6	60.1	9.5	69.6	15.7
15	261,308	34.5	452,076	59.7	44,212	5.8	57.8	9.8	67.6	16.9
22	319,884	34.5	554,611	59.8	53,248	5.7	57.7	9.6	67.3	16.6
25	335,861	35.1	563,649	58.9	57,746	6.0	59.6	10.2	69.8	17.2
30	325,657	33.7	578,096	59.8	62,434	6.5	56.3	10.8	67.1	19.2
35	294,067	30.2	613,802	63.1	65,549	6.7	47.9	10.7	58.6	22.3
40	244,016	24.9	666,139	67.9	70,344	7.2	36.6	10.6	47.2	28.8
45	235,380	23.5	685,300	68.4	81,740	8.2	34.3	11.9	46.3	34.7
50	258,131	24.1	713,690	66.7	97,825	9.1	36.2	13.7	49.9	37.9
55	265,968	23.8	735,098	65.7	117,580	10.5	36.2	16.0	52.2	44.2
60	254,109	22.1	761,172	66.1	136,772	11.9	33.4	18.0	51.4	53.8
平成2年	215,171	18.5	786,378	67.5	160,692	13.8	27.4	20.4	47.8	74.7
7	189,741	16.1	799,338	67.7	190,905	16.2	23.7	23.9	47.6	100.6
8	186,560	15.8	798,073	67.5	197,806	16.7	23.4	24.8	48.2	106.0
9	183,346	15.5	796,270	67.3	203,539	17.2	23.0	25.6	48.6	111.0
10	180,576	15.3	793,392	67.0	209,980	17.7	22.8	26.5	49.2	116.3
11	177,812	15.0	791,046	66.8	214,930	18.2	22.5	27.2	49.6	120.9
12	175,569	14.9	781,137	66.1	219,666	18.6	22.5	28.1	50.6	125.1
13	173,653	14.7	775,752	65.7	226,515	19.2	22.4	29.2	51.6	130.4
14	172,019	14.6	772,319	65.4	231,622	19.6	22.3	30.0	52.3	134.6
15	170,398	14.5	768,251	65.2	235,914	20.0	22.2	30.7	52.9	138.4

注 1 各年10月1日現在

2 大正9年～平成7年及び平成12年は国勢調査の結果であり、平成8～11年及び平成13～15年は県推計人口である。

3 年齢「不詳」を除く。ただし「構成比」の算出において、総人口には年齢「不詳」を含む。

(2) 全国比較

ア 年齢3区分別人口

全国平均に比べ、生産年齢人口の割合が低く、年少人口及び老年人口の割合が高くなっている。

イ 年齢構造指数

いずれの指数も、全国平均を上回っており、本県の実年齢層の扶養負担の程度が比較的重いことを表している。

(表10)

表10 年齢3区分別人口割合・指数の全国との比較 (平成15年10月1日現在)

区分	年齢3区分別人口割合(%)				年齢構造指数			
	総数	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	年少人口	老年人口	従属人口	老年化
石川県	100.0	14.5	65.2	20.0	22.2	30.7	52.9	138.4
南加賀	100.0	15.2	64.3	20.3	23.6	31.6	55.2	133.8
石川中央	100.0	14.8	67.8	16.9	21.9	24.9	46.8	113.6
羽咋郡市	100.0	13.0	60.0	27.0	21.7	45.0	66.7	207.6
七尾鹿島	100.0	13.6	60.5	25.7	22.5	42.5	65.0	188.7
奥能登	100.0	11.1	54.2	34.6	20.5	63.9	84.4	311.1
全国	100.0	14.0	66.9	19.0	21.0	28.5	49.4	135.5
差	-	0.5	1.7	1.0	1.2	2.2	3.5	2.9

注 1 全国数値は、「総務省統計局人口推計月報(概算値)」より算出

2 総数には、年齢「不詳」を含む。

(3) 市町村別の年齢3区分別人口

ア 年少人口割合

年少人口割合の最も高かったのは津幡町の18.8%、次いで川北町、宇ノ気町の順であり、最も低かったのは門前町の7.2%、次いで富来町、穴水町の順であった。

イ 生産年齢人口割合

生産年齢人口割合の最も高かったのは野々市町の71.4%、次いで内灘町、松任市の順であり、最も低かったのは門前町の46.0%、次いで柳田村、白峰村の順であった。

ウ 老年人口割合

老年人口割合の最も高かったのは門前町の46.8%、次いで柳田村、珠洲市の順であり、最も低かったのは野々市町の12.2%、次いで内灘町、松任市の順であった。 (表11)

表11 年少人口・生産年齢人口・老年人口割合の上・下位各5市町村 (平成15年10月1日現在) 単位：%

順位	区分	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)	
		市町村名	割合	市町村名	割合	市町村名	割合
上位	1	津幡町	18.8	野々市町	71.4	門前町	46.8
	2	川北町	18.2	内灘町	69.1	柳田村	36.3
	3	宇ノ気町	17.8	松任市	68.7	珠洲市	36.1
	4	寺井町	17.6	金沢市	67.9	富来町	35.5
	5	河内村	16.7	鶴来町	67.9	穴水町	34.6
下位	37	珠洲市	10.9	吉野谷村	53.9	鶴来町	16.5
	38	能都町	10.8	珠洲市	53.1	津幡町	15.6
	39	穴水町	10.5	白峰村	53.0	松任市	15.3
	40	富来町	10.4	柳田村	52.3	内灘町	14.1
	41	門前町	7.2	門前町	46.0	野々市町	12.2

(4) 広域圏等の状況

年少人口割合は南加賀地域、石川中央地域で高く、生産年齢人口割合は石川中央地域で高くなっている。老年人口割合は白山麓及び能登地域で高く、人口の高齢化が目立った。 (表10、12)

(5) 市町村別の従属人口指数、老年化指数

ア 従属人口指数

生産年齢層から見た場合、最も扶養負担度が高いのは、門前町の117.3、最も低いのは野々市町の37.7であった。

イ 老年化指数

36市町村で100を超えており、最も高いのは、門前町の649.7、最も低いのは津幡町の83.1であった。 (表12)

表12 市町村別、年齢3区分別人口・割合・指数（平成15年10月1日現在）

市町村名	年 齢 別 人 口 (人)					年 齢 別 人 口 割 合 (%)			年 齢 構 造 指 数			
	総人口	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	不詳	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	年少人口	老年人口	従属人口	老年化
金 沢 市	457,074	64,820	310,371	79,079	2,804	14.2	67.9	17.3	20.9	25.5	46.4	122.0
七 尾 市	46,654	6,466	28,809	11,286	93	13.9	61.8	24.2	22.4	39.2	61.6	174.5
小 松 市	108,844	16,854	70,399	21,176	415	15.5	64.7	19.5	23.9	30.1	54.0	125.6
輪 島 市	25,701	3,201	14,618	7,879	3	12.5	56.9	30.7	21.9	53.9	75.8	246.1
珠 洲 市	18,703	2,031	9,923	6,749	-	10.9	53.1	36.1	20.5	68.0	88.5	332.3
加 賀 市	67,243	9,215	42,670	15,208	150	13.7	63.5	22.6	21.6	35.6	57.2	165.0
羽 咋 市	25,022	3,278	15,307	6,437	-	13.1	61.2	25.7	21.4	42.1	63.5	196.4
松 任 市	66,774	10,517	45,864	10,190	203	15.8	68.7	15.3	22.9	22.2	45.1	96.9
山 中 町	9,874	1,260	5,991	2,623	-	12.8	60.7	26.6	21.0	43.8	64.8	208.2
根 上 町	15,901	2,652	10,339	2,884	26	16.7	65.0	18.1	25.7	27.9	53.5	108.7
寺 井 町	15,779	2,782	10,127	2,863	7	17.6	64.2	18.1	27.5	28.3	55.7	102.9
辰 口 町	14,736	2,320	9,926	2,490	-	15.7	67.4	16.9	23.4	25.1	48.5	107.3
川 北 町	5,384	980	3,407	997	-	18.2	63.3	18.5	28.8	29.3	58.0	101.7
美 川 町	12,833	2,076	8,290	2,467	-	16.2	64.6	19.2	25.0	29.8	54.8	118.8
鶴 来 町	22,095	3,440	14,997	3,637	21	15.6	67.9	16.5	22.9	24.3	47.2	105.7
野々市町	46,340	6,808	33,104	5,664	764	14.7	71.4	12.2	20.6	17.1	37.7	83.2
河 内 村	1,180	197	731	252	-	16.7	61.9	21.4	26.9	34.5	61.4	127.9
吉野谷村	1,335	165	719	451	-	12.4	53.9	33.8	22.9	62.7	85.7	273.3
鳥 越 村	3,099	432	1,682	985	-	13.9	54.3	31.8	25.7	58.6	84.2	228.0
尾 口 村	712	90	409	213	-	12.6	57.4	29.9	22.0	52.1	74.1	236.7
白 峰 村	1,157	183	613	361	-	15.8	53.0	31.2	29.9	58.9	88.7	197.3
津 幡 町	35,238	6,609	23,078	5,494	57	18.8	65.5	15.6	28.6	23.8	52.4	83.1
高 松 町	10,622	1,326	6,786	2,510	-	12.5	63.9	23.6	19.5	37.0	56.5	189.3
七 塚 町	11,326	1,820	7,245	2,260	1	16.1	64.0	20.0	25.1	31.2	56.3	124.2
宇ノ気町	12,704	2,267	8,206	2,230	1	17.8	64.6	17.6	27.6	27.2	54.8	98.4
内 灘 町	26,927	4,489	18,597	3,790	51	16.7	69.1	14.1	24.1	20.4	44.5	84.4
富 来 町	9,106	946	4,925	3,235	-	10.4	54.1	35.5	19.2	65.7	84.9	342.0
志 雄 町	7,157	1,003	4,306	1,848	-	14.0	60.2	25.8	23.3	42.9	66.2	184.2
志 賀 町	15,421	2,076	9,318	4,027	-	13.5	60.4	26.1	22.3	43.2	65.5	194.0
押 水 町	8,454	1,175	5,225	2,054	-	13.9	61.8	24.3	22.5	39.3	61.8	174.8
田 鶴 浜 町	5,877	800	3,563	1,514	-	13.6	60.6	25.8	22.5	42.5	64.9	189.3
鳥 屋 町	5,604	854	3,402	1,345	3	15.2	60.7	24.0	25.1	39.5	64.6	157.5
中 島 町	7,014	851	3,875	2,288	-	12.1	55.2	32.6	22.0	59.0	81.0	268.9
鹿 島 町	8,545	1,138	5,119	2,288	-	13.3	59.9	26.8	22.2	44.7	66.9	201.1
能 登 島 町	3,229	409	1,847	973	-	12.7	57.2	30.1	22.1	52.7	74.8	237.9
鹿 西 町	4,892	635	2,907	1,349	1	13.0	59.4	27.6	21.8	46.4	68.2	212.4
穴 水 町	10,777	1,129	5,917	3,729	2	10.5	54.9	34.6	19.1	63.0	82.1	330.3
門 前 町	7,571	545	3,482	3,541	3	7.2	46.0	46.8	15.7	101.7	117.3	649.7
能 都 町	10,680	1,156	5,863	3,661	-	10.8	54.9	34.3	19.7	62.4	82.2	316.7
柳 田 村	4,215	481	2,203	1,531	-	11.4	52.3	36.3	21.8	69.5	91.3	318.3
内 浦 町	7,369	922	4,091	2,356	-	12.5	55.5	32.0	22.5	57.6	80.1	255.5
合 計	1,179,168	170,398	768,251	235,914	4,605	14.5	65.2	20.0	22.2	30.7	52.9	138.4

## 6 世帯数及び1世帯当たり人員 統計表第1表 (P26)

◇増え続ける世帯数、縮小する世帯規模、昭和25年以降一貫した傾向◇

世 帯 数 423,530世帯 前年比 3,824世帯 (0.91%) 増加  
 1世帯当たり人数 2.78人 前年比 0.03人減少

### (1) 市町村別の世帯数と増減率

#### ア 世帯数

金沢市の182,363世帯が最も多く県全体の43.1%を占め、次いで小松市35,478世帯、加賀市22,976世帯の順であった。

#### イ 増減率

増加率は、川北町が4.92%と最も高く、次いで輪島市4.24%、寺井町2.67%などであった。

減少率は、吉野谷村が1.89%と最も高く、次いで鹿西町の1.38%、中島町の1.23%などであった。

(2) 1世帯当たり人員

1世帯当たり人員は、2.78人で前年を0.03人下回り、依然減少が続いている。

ア 地域別

羽咋郡市が3.10人で最も多く、石川中央が2.66人で最も少なかった。

イ 市町村別

川北町が3.77人で最も多く、次いで鳥越村の3.68人、河内村、高松町の3.42人の順で、少ないのは野々市町の2.34人、門前町の2.44人、金沢市の2.51人などであった。 (表13)

表13 年次別・地域別世帯数及び一世帯当たり人員

単位 { 世帯数：世帯  
一世帯当たり人員：人

年次	総数		加賀						能登							
			計		南加賀		石川中央		計		羽咋郡市		七尾鹿島		奥能登	
	世帯数	一世帯当たり人員	世帯数	一世帯当たり人員	世帯数	一世帯当たり人員	世帯数	一世帯当たり人員	世帯数	一世帯当たり人員	世帯数	一世帯当たり人員	世帯数	一世帯当たり人員	世帯数	一世帯当たり人員
平成5年	374,294	3.13	297,562	3.06	68,400	3.41	229,162	2.96	76,732	3.38	20,392	3.50	25,880	3.41	30,460	3.28
6	378,692	3.10	301,933	3.04	69,280	3.37	232,653	2.94	76,759	3.35	20,470	3.45	26,106	3.36	30,183	3.26
7	390,212	3.02	312,750	2.96	70,731	3.32	242,019	2.86	77,462	3.27	20,187	3.46	26,412	3.30	30,863	3.12
8	395,740	2.99	318,121	2.93	71,916	3.28	246,205	2.83	77,619	3.23	20,235	3.42	26,600	3.25	30,784	3.08
9	400,689	2.95	322,775	2.90	72,847	3.24	249,928	2.80	77,914	3.18	20,369	3.37	26,794	3.21	30,751	3.04
10	405,663	2.92	327,572	2.87	73,934	3.20	253,638	2.77	78,091	3.14	20,480	3.32	26,916	3.17	30,695	2.99
11	410,365	2.88	331,948	2.84	74,921	3.17	257,027	2.74	78,417	3.09	20,549	3.27	27,155	3.12	30,713	2.94
12	411,341	2.87	333,378	2.82	75,193	3.15	258,185	2.73	77,963	3.07	20,685	3.23	26,821	3.10	30,457	2.93
13	415,339	2.84	337,099	2.80	76,096	3.12	261,003	2.71	78,240	3.03	20,816	3.19	27,019	3.06	30,405	2.88
14	419,706	2.81	341,118	2.77	76,962	3.09	264,156	2.68	78,588	2.98	20,935	3.14	27,259	3.02	30,394	2.84
15	423,530	2.78	344,351	2.75	77,764	3.06	266,587	2.66	79,179	2.93	21,031	3.10	27,511	2.97	30,637	2.77

注 平成7年及び12年は国勢調査による数値であり、その他は各年10月1日現在の県推計による数値である。

7 出生及び死亡の状況 (自然動態)

統計表第2表 (P28)、第15表 (P54)

◇金沢市近郊で自然増加、能登地域では自然減少◇

(1) 市町村別自然動態

ア 市町村別

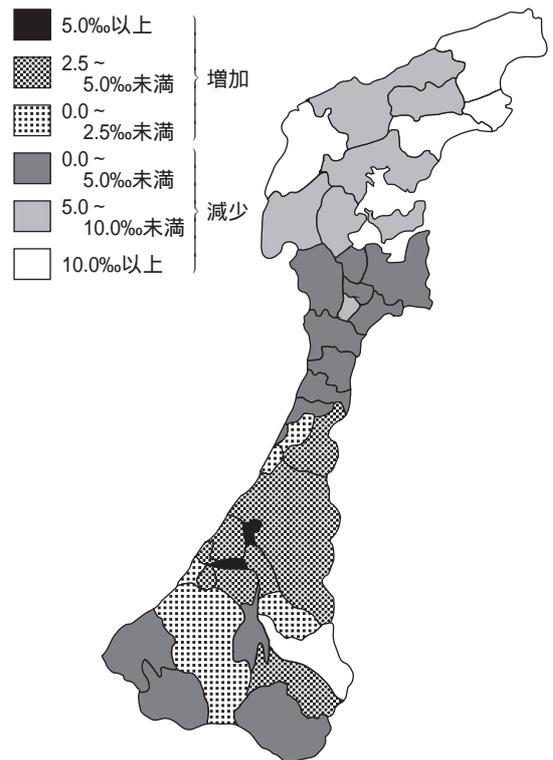
市町村別でみると、自然増加となったのは、金沢市、野々市町、松任市など15市町村で、珠洲市、輪島市、加賀市など26市町村は自然減少となった。

イ 自然増加率

自然増加率の最も高かったのは川北町の8.54%で、次いで野々市町、寺井町の順であり、最も低かったのは門前町の17.25%で、次いで吉野谷村、能都町の順であった。 (表14、図11)

図11 市町村別自然増加率

(平成14年10月～平成15年9月)



ウ 出生率

出生率は川北町、野々市町、寺井町などで高く、能都町、門前町、富来町などで低くなっている。

エ 死亡率

死亡率は門前町、吉野谷村、柳田村などで高く、野々市町、尾口村、河内村などで低くなっている。

表14 出生・死亡・自然増加率の上・下位各5市町村

順位	区分	自然増加率			出生率			死亡率		
		市町村名	率(%)	実数(人)	市町村名	率(%)	実数(人)	市町村名	率(%)	実数(人)
上位	1	川北町	8.54	44	川北町	15.14	78	門前町	21.37	166
	2	野々市町	7.58	350	野々市町	12.67	585	吉野谷村	18.49	25
	3	寺井町	4.41	69	寺井町	12.58	197	柳田村	15.95	70
	4	鶴来町	3.56	78	根上町	11.07	176	珠洲市	15.78	302
	5	津幡町	3.53	124	鳥屋町	10.87	61	内浦町	15.44	116
下位	37	内浦町	10.51	79	内浦町	4.92	37	川北町	6.60	34
	38	珠洲市	10.92	209	珠洲市	4.86	93	松任市	6.55	434
	39	能都町	10.98	120	富来町	4.72	44	河内村	5.91	7
	40	吉野谷村	13.31	18	門前町	4.12	32	尾口村	5.58	4
	41	門前町	17.25	134	能都町	4.03	44	野々市町	5.09	235

注 平成14年10月から15年9月までの1年間の計である。

(2) 年齢階級別死亡者数

この1年間の死亡者数は、昨年と比べて352人増の9,968人で、内訳は男性5,228人(112人の増加)、女性4,740人(240人の増加)であった。これを年齢階級別にみると、80～89歳が3,373人(96人の増加)で全体の33.8%(0.3ポイントの低下)を占め、以下70～79歳、90～99歳の順であった。

また、男女別にみると、80歳未満の死亡者の割合が男性では60.2%であるのに対し、女性では36.2%となっており、女性が長寿である傾向を示している。(表15、図12)

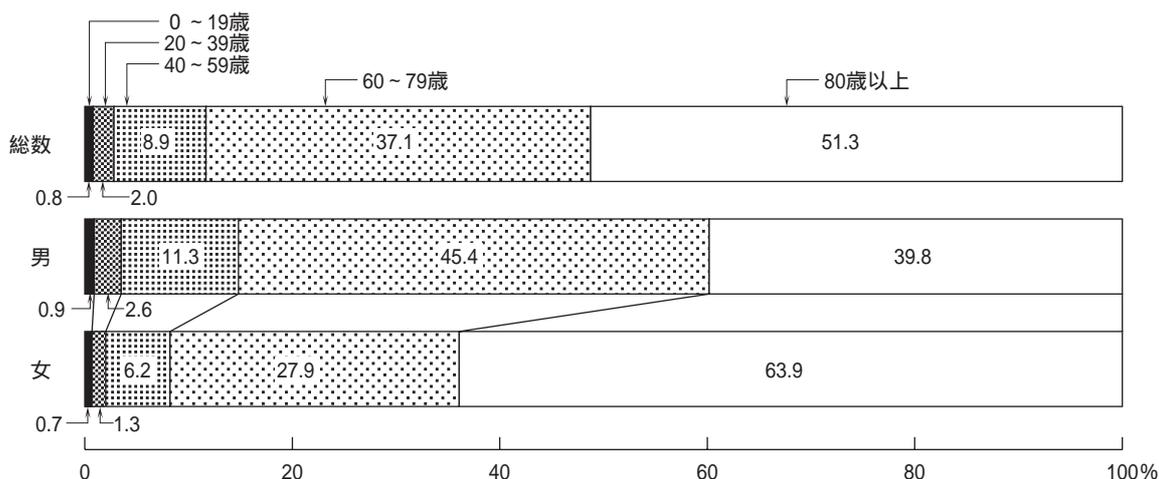
表15 年齢階級別死亡者数

単位 {実数：人  
構成比：%

区分	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	
実数	計	9,968	57	23	97	99	194	692	1,187	2,509	3,373	1,651	86
	男	5,228	34	15	70	65	134	457	810	1,564	1,581	479	19
	女	4,740	23	8	27	34	60	235	377	945	1,792	1,172	67
構成比	計	100.0	0.6	0.2	1.0	1.0	1.9	6.9	11.9	25.2	33.8	16.6	0.9
	男	100.0	0.7	0.3	1.3	1.2	2.6	8.7	15.5	29.9	30.2	9.2	0.4
	女	100.0	0.5	0.2	0.6	0.7	1.3	5.0	8.0	19.9	37.8	24.7	1.4

注 平成14年10月から15年9月までの1年間の死亡者数である。

図12 年齢階級別死亡者の割合（平成14年10月～平成15年9月）



## 8 移動者の状況（社会動態）

統計表第2表（P28）、第16表（P56）、第18表（P118）、第19表（P130）

◇6年連続、移動者数の減少◇

1年間の移動者数 65,993人（前年より193人減少）

### (1) 移動者数

この1年間の移動者数（県内移動者数＋県外移動者数）は、65,993人で、前年と比べて193人減少した。内訳は県内移動者の104人減少、県外からの転入者の578人減少、県外への転出者281人増加である。

（表16）

### (2) 市町村別移動者数

#### ア 転入者数、転出者数

転入者が最も多かったのは金沢市の17,794人で、次いで野々市町、小松市、松任市の順であった。

また、転出者が最も多かったのは、金沢市の19,126人で、次いで野々市町、小松市、松任市の順であった。

#### イ 転入超過、転出超過

転入超過の最も多かったのは松任市の320人で、次いで輪島市、川北町、鶴来町の順であった。

転出超過の最も多かったのは、金沢市の1,332人で、次いで加賀市、小松市、珠洲市の順であった。

地域別にみると、すべての地域で転出超過となった。

（表17、図13、14）

表16 年次別県内、県外別移動者数

単位 移動者数：人  
移動率：%

年次	移動者数				移動率			
	総数	県内移動	県外移動		総数	県内移動	県外移動	
			転入	転出			転入	転出
平成5年	69,650	21,480	23,976	24,194	5.96	1.84	2.05	2.07
6	68,371	21,934	22,976	23,461	5.84	1.87	1.96	2.00
7	69,470	22,511	23,851	23,108	5.92	1.92	2.03	1.97
8	70,081	22,236	23,901	23,944	5.94	1.88	2.03	2.03
9	70,339	22,219	23,277	24,843	5.95	1.88	1.97	2.10
10	68,170	20,616	23,010	24,544	5.76	1.74	1.94	2.07
11	67,982	21,082	22,692	24,208	5.74	1.78	1.92	2.04
12	67,429	20,891	22,598	23,940	5.70	1.76	1.91	2.02
13	67,059	20,872	21,917	24,270	5.68	1.77	1.86	2.06
14	66,186	20,208	22,227	23,751	5.61	1.71	1.88	2.01
15	65,993	20,312	21,649	24,032	5.59	1.72	1.83	2.04

注 各年次の移動者数は前年10月から当年9月までの計である。

表17 地域別転入・転出者数

単位：人

転入・転出	総数	加賀			能登			
		計	南加賀	石川中央	計	羽咋都市	七尾鹿島	奥能登
転入者数	41,961	35,871	7,368	28,503	6,090	1,603	2,302	2,185
転出者数	44,344	37,176	7,710	29,466	7,168	2,003	2,569	2,596
社会増減数	2,383	1,305	342	963	1,078	400	267	411

注 平成14年10月から15年9月までの1年間の移動である。

図13 市町村別社会増減数  
(平成14年10月～平成15年9月)

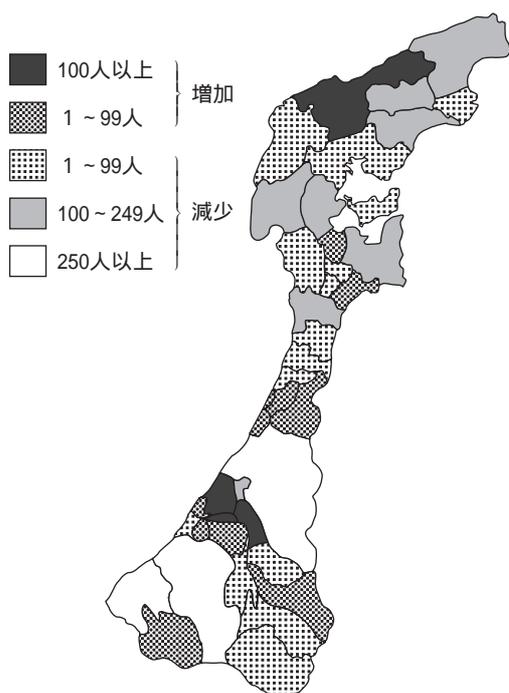
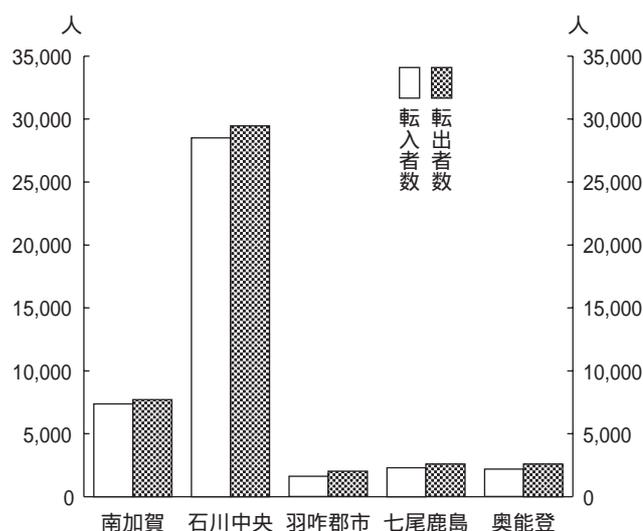


図14 地域別転入・転出者数  
(平成14年10月～平成15年9月)



(3) 県外移動者数

◇転入トップ 富山県 転出トップ 東京都◇

転入 富山県から2,632人 転出 東京都へ2,830人

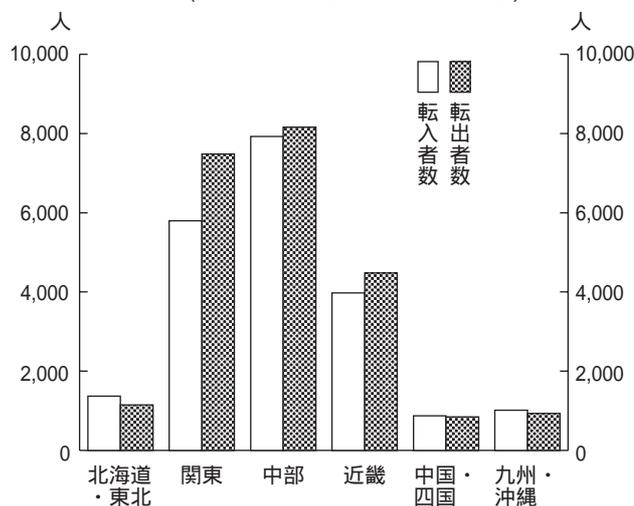
ア 転入者数、転出者数

この1年間の県外移動者数を都道府県別にみると、転入者の最も多かったのは富山県からの2,632人で、次いで東京都1,980人、愛知県1,932人、大阪府1,740人、福井県1,377人の順である。

転出者が最も多かったのは東京都への2,830人で、次いで富山県2,599人、愛知県2,373人、大阪府1,927人、神奈川県1,588人の順となっており、隣県及び大都市圏との移動が多かった。

図15 都道府県ブロック別転入・転出者数

(平成14年10月～平成15年9月)



イ 転入超過、転出超過

転入超過の最も多かったのは山梨県の118人で、次いで北海道、福井県、青森県、島根県など23都府県で転入超過となった。また、転出超過となったのは東京都の850人が最も多く、次いで、愛知県、神奈川県、大阪府、兵庫県など22都府県であった。

(表18、19、図15、16)

表18 他都道府県との転出入者数上位5都道府県

単位：人

順位	転入者数		転出者数		転入超過		転出超過	
1	富山県	2,632	東京都	2,830	山梨県	118	東京都	850
2	東京都	1,980	富山県	2,599	北海道	109	愛知県	441
3	愛知県	1,932	愛知県	2,373	福井県	77	神奈川県	418
4	大阪府	1,740	大阪府	1,927	青森県	48	大阪府	187
5	福井県	1,377	神奈川県	1,588	島根県	46	兵庫県	186

注 平成14年10月から15年9月までの1年間の移動である。

表19 都道府県ブロック別転入・転出者数

単位：人

転入・転出	総数	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
転入者数	21,649	1,370	5,796	7,923	3,977	872	1,014
転出者数	24,032	1,152	7,481	8,158	4,477	847	931
社会増減数	2,383	218	1,685	235	500	25	83

注 1 平成14年10月から15年9月までの1年間の移動である。

2 転入者総数及び転出者総数には国外との移動者及び従前の住所地等不明者を含むため、各ブロックの合計と一致しない。

図16 他都道府県との移動状況（平成14年10月～平成15年9月）

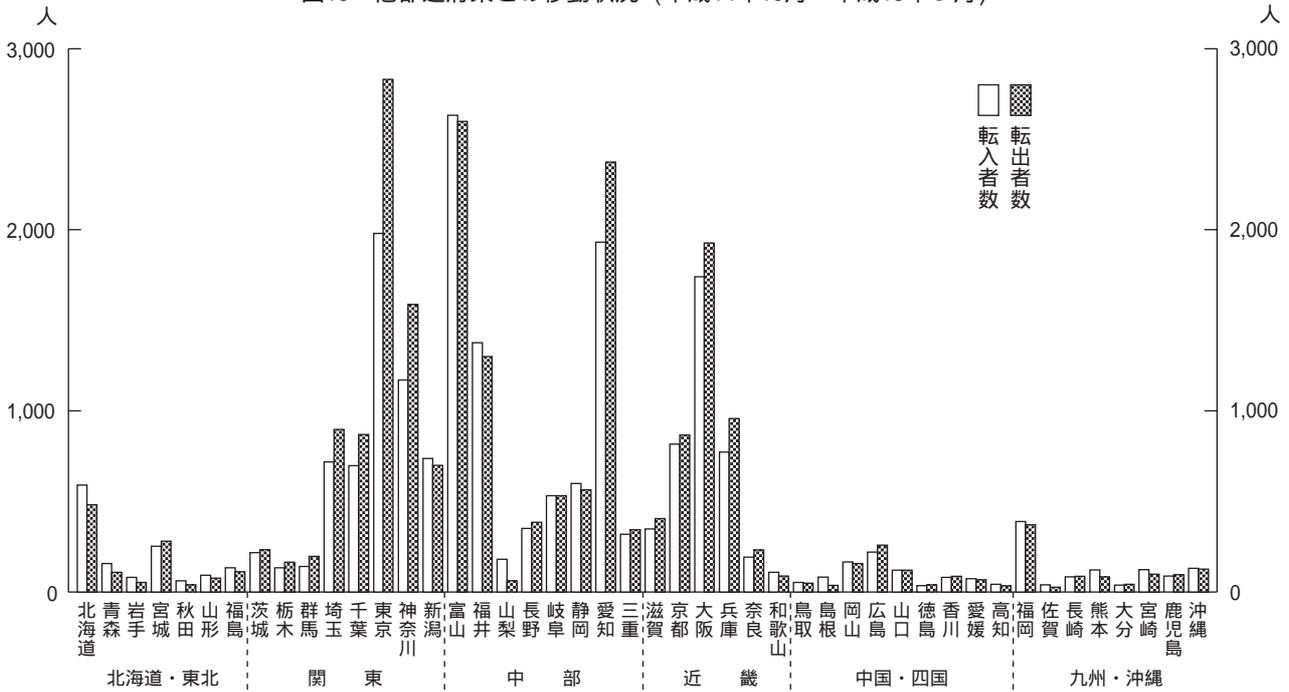
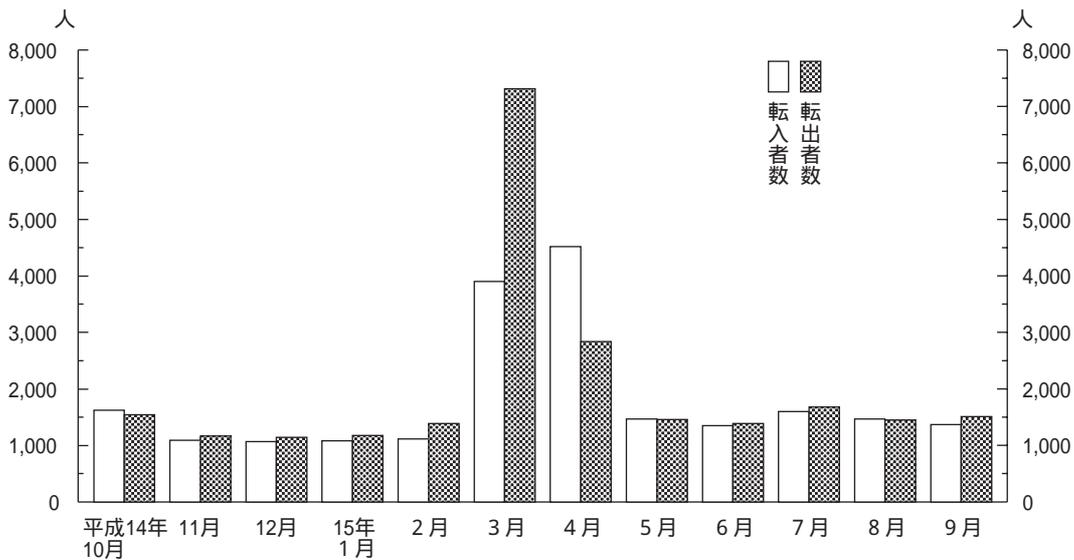


図17 月別県外転入者・転出者数（平成14年10月～平成15年9月）



(4) 年齢階級別移動者数

この1年間の移動者数を年齢階級別にみると、25～29歳が12,740人と最も多く、次いで20～24歳、30～34歳の順となっている。また、この3つの年齢階級で県内移動、県外移動とも過半数を占めている。

このうち県外移動者について転入・転出の差（社会増減数）でみると、転入超過となったのは70～74歳（16人）と95～99歳（1人）のみで、その他の階級ではすべて転出超過となっている。転出超過では20～24歳の938人、25～29歳の420人が際立っている。（表20、21、図18）

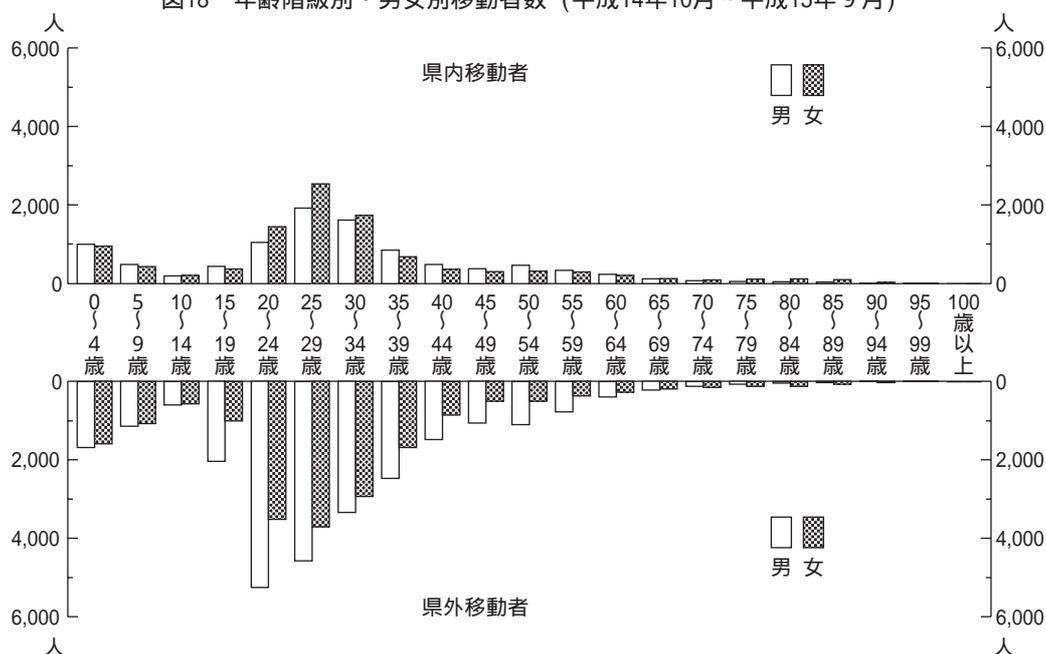
表20 年齢階級別移動者数

単位 移動者数：人  
構成比：%

年齢階級	総数		県内移動者数		県外からの転入者数		県外への転出者数		社会増減数
	数	構成比	数	構成比	数	構成比	数	構成比	
計	65,993	100.0	20,312	100.0	21,649	100.0	24,032	100.0	2,383
0～4歳	5,231	7.9	1,958	9.6	1,616	7.5	1,657	6.9	41
5～9歳	3,139	4.8	922	4.5	1,047	4.8	1,170	4.9	123
10～14歳	1,572	2.4	403	2.0	533	2.5	636	2.6	103
15～19歳	3,846	5.8	808	4.0	1,432	6.6	1,606	6.7	174
20～24歳	11,267	17.1	2,499	12.3	3,915	18.1	4,853	20.2	938
25～29歳	12,740	19.3	4,468	22.0	3,926	18.1	4,346	18.1	420
30～34歳	9,626	14.6	3,360	16.5	3,105	14.3	3,161	13.2	56
35～39歳	5,685	8.6	1,535	7.6	2,057	9.5	2,093	8.7	36
40～44歳	3,189	4.8	852	4.2	1,107	5.1	1,230	5.1	123
45～49歳	2,258	3.4	685	3.4	737	3.4	836	3.5	99
50～54歳	2,387	3.6	782	3.8	740	3.4	865	3.6	125
55～59歳	1,783	2.7	635	3.1	551	2.5	597	2.5	46
60～64歳	1,114	1.7	447	2.2	318	1.5	349	1.5	31
65～69歳	660	1.0	245	1.2	202	0.9	213	0.9	11
70～74歳	440	0.7	168	0.8	144	0.7	128	0.5	16
75～79歳	369	0.6	172	0.8	81	0.4	116	0.5	35
80～84歳	329	0.5	169	0.8	69	0.3	91	0.4	22
85～89歳	248	0.4	143	0.7	50	0.2	55	0.2	5
90～94歳	87	0.1	47	0.2	14	0.1	26	0.1	12
95～99歳	22	0.0	13	0.1	5	0.0	4	0.0	1
100歳以上	1	0.0	1	0.0	-	-	-	-	-

注 平成14年10月から15年9月までの1年間の移動である。

図18 年齢階級別・男女別移動者数（平成14年10月～平成15年9月）



(5) 男女別移動者数

県内移動者数を男女別にみると、20～29歳では性比が74.5と女性の方が1,017人多くなっている。

一方、35～54歳では、性比は130.9だと男性の方が516人多くなっている。特に50～54歳では、性比は145.9と高くなっている。

県外転入・転出では、15～69歳の年齢階級で男性移動者が多く、性比は108.2から254.5の間となっている。

(表21、図18)

表21 年齢階級別・男女別移動者数

単位：人

区 分	総 数		県内移動者数		県外からの 転 入 者 数		県外への 転 出 者 数		移動者の性比 (女 = 100)			
	男	女	男	女	男	女	男	女	総 数	県内移動	県外転入	県外転出
計	36,223	29,770	9,836	10,476	12,592	9,057	13,795	10,237	121.7	93.9	139.0	134.8
0 ~ 4 歳	2,683	2,548	1,003	955	833	783	847	810	105.3	105.0	106.4	104.6
5 ~ 9	1,633	1,506	487	435	532	515	614	556	108.4	112.0	103.3	110.4
10 ~ 14	791	781	196	207	263	270	332	304	101.3	94.7	97.4	109.2
15 ~ 19	2,477	1,369	438	370	1,028	404	1,011	595	180.9	118.4	254.5	169.9
20 ~ 24	6,300	4,967	1,049	1,450	2,362	1,553	2,889	1,964	126.8	72.3	152.1	147.1
25 ~ 29	6,490	6,250	1,926	2,542	2,181	1,745	2,383	1,963	103.8	75.8	125.0	121.4
30 ~ 34	4,957	4,669	1,618	1,742	1,658	1,447	1,681	1,480	106.2	92.9	114.6	113.6
35 ~ 39	3,316	2,369	851	684	1,244	813	1,221	872	140.0	124.4	153.0	140.0
40 ~ 44	1,971	1,218	490	362	689	418	792	438	161.8	135.4	164.8	180.8
45 ~ 49	1,445	813	380	305	512	225	553	283	177.7	124.6	227.6	195.4
50 ~ 54	1,564	823	464	318	489	251	611	254	190.0	145.9	194.8	240.6
55 ~ 59	1,113	670	339	296	374	177	400	197	166.1	114.5	211.3	203.0
60 ~ 64	632	482	239	208	190	128	203	146	131.1	114.9	148.4	139.0
65 ~ 69	342	318	120	125	105	97	117	96	107.5	96.0	108.2	121.9
70 ~ 74	198	242	77	91	65	79	56	72	81.8	84.6	82.3	77.8
75 ~ 79	130	239	56	116	32	49	42	74	54.4	48.3	65.3	56.8
80 ~ 84	85	244	48	121	14	55	23	68	34.8	39.7	25.5	33.8
85 ~ 89	70	178	40	103	17	33	13	42	39.3	38.8	51.5	31.0
90 ~ 94	19	68	12	35	3	11	4	22	27.9	34.3	27.3	18.2
95 ~ 99	7	15	3	10	1	4	3	1	46.7	30.0	25.0	300.0
100歳以上	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

注 平成14年10月から15年9月までの1年間の移動である。

## (6) 過去の推移

県外移動者数について昭和46年からの傾向をみると、転入・転出ともに減少傾向にある。

転入と転出の差である社会増減数では、昭和62年、平成元年に約3,000人のマイナスとなっている。平成7年には一旦プラスに転じたが、翌年には再びマイナスとなり平成9年以降は1,000~2,000人のマイナスで推移している。

(図19、20)

図19 社会増減数の推移 (昭和46年~平成15年)

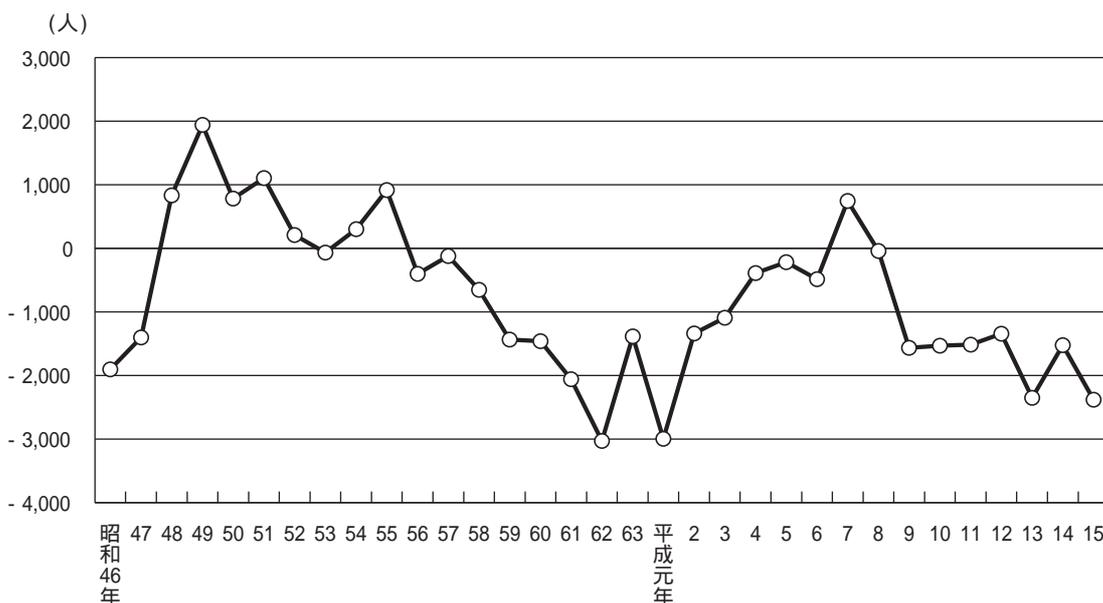
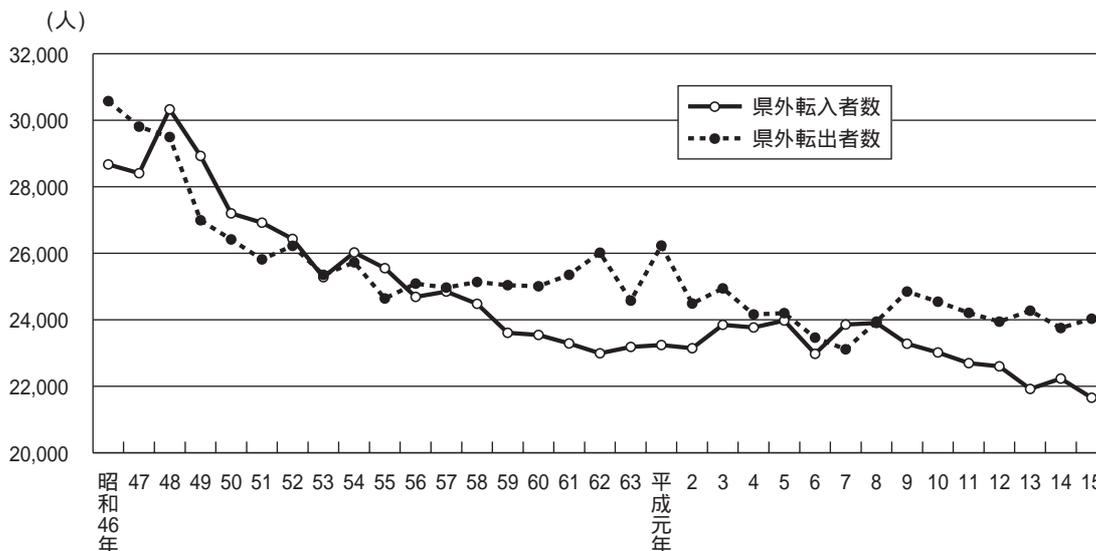


図20 県外転入・転出者数の推移（昭和46年～平成15年）



参考表1 他都道府県から石川県への転入者数

(単位：人、%)

広域圏	転入者数 合計	北海道 ・東北	関東		中部		近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄		
			うち東京都	うち愛知県	うち愛知県	うち大阪府					
南加賀	合計	3,654	247	947	291	1,092	265	765	350	155	253
	割合	16.88%	6.76%	25.92%	7.96%	29.89%	7.25%	20.94%	9.58%	4.24%	6.92%
石川中央	合計	15,289	945	4,084	1,441	5,895	1,457	2,656	1,094	617	664
	割合	70.62%	6.18%	26.71%	9.43%	38.56%	9.53%	17.37%	7.16%	4.04%	4.34%
羽咋都市	合計	640	60	190	74	202	48	123	67	23	20
	割合	2.96%	9.38%	29.69%	11.56%	31.56%	7.50%	19.22%	10.47%	3.59%	3.13%
七尾鹿島	合計	1,031	71	299	76	353	83	192	104	38	44
	割合	4.76%	6.89%	29.00%	7.37%	34.24%	8.05%	18.62%	10.09%	3.69%	4.27%
奥能登	合計	1,035	47	276	98	381	79	241	125	39	33
	割合	4.78%	4.54%	26.67%	9.47%	36.81%	7.63%	23.29%	12.08%	3.77%	3.19%
(再掲) 金沢市	合計	12,015	747	3,285	1,175	4,625	1,146	2,028	820	478	533
	割合	55.50%	6.22%	27.34%	9.78%	38.49%	9.54%	16.88%	6.82%	3.98%	4.44%
総計	21,649	1,370	5,796	1,980	7,923	1,932	3,977	1,740	872	1,014	
		100.00%	6.33%	26.77%	9.15%	36.60%	8.92%	18.37%	8.04%	4.03%	4.68%

参考表2 石川県から他都道府県への転出者数

(単位：人、%)

広域圏	転出者数 合計	北海道 ・東北	関東		中部		近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄		
			うち東京都	うち愛知県	うち愛知県	うち大阪府					
南加賀	合計	4,121	234	1,305	508	1,199	307	784	304	158	242
	割合	17.15%	5.68%	31.67%	12.33%	29.09%	7.45%	19.02%	7.38%	3.83%	5.87%
石川中央	合計	17,053	804	5,189	1,947	6,025	1,856	3,099	1,338	615	615
	割合	70.96%	4.71%	30.43%	11.42%	35.33%	10.88%	18.17%	7.85%	3.61%	3.61%
羽咋都市	合計	812	42	289	108	246	40	149	69	24	20
	割合	3.38%	5.17%	35.59%	13.30%	30.30%	4.93%	18.35%	8.50%	2.96%	2.46%
七尾鹿島	合計	1,089	46	350	124	394	82	202	103	31	37
	割合	4.53%	4.22%	32.14%	11.39%	36.18%	7.53%	18.55%	9.46%	2.85%	3.40%
奥能登	合計	957	26	348	143	294	88	243	113	19	17
	割合	3.98%	2.72%	36.36%	14.94%	30.72%	9.20%	25.39%	11.81%	1.99%	1.78%
(再掲) 金沢市	合計	13,207	628	4,007	1,515	4,696	1,496	2,401	1,063	475	478
	割合	54.96%	4.76%	30.34%	11.47%	35.56%	11.33%	18.18%	8.05%	3.60%	3.62%
総計	24,032	1,152	7,481	2,830	8,158	2,373	4,477	1,927	847	931	
		100.00%	4.79%	31.13%	11.78%	33.95%	9.87%	18.63%	8.02%	3.52%	3.87%

注 1 平成14年10月から平成15年9月までの1年間の移動である。

2 割合は転入者数合計・転出者数合計欄については、総計に対して各広域圏の占める割合、他都道府県欄は各広域圏合計に占める割合である。

3 転入者数合計・転出者数合計及び総計には、国外・不詳を含む。